

一関市立図書館振興計画

(令和8年度－令和17年度)

併録 前期サービス計画(令和8年度－令和12年度)



令和8年3月
一関市教育委員会

一関市立図書館振興計画

目次

はじめに

I 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の目標年次、計画期間	1
3 計画の体系図	1
II 現状と課題（現状分析）	2
1 人口の将来推計	2
2 データで見る図書館の現状	3
3 図書館利用の状況	6
4 各図書館の特徴	9
III 課題の整理	11
1 読書環境の整備	11
(1) 乳幼児・児童・青少年へのサービスと学校図書館支援	11
(2) 成人へのサービス	12
(3) 図書館利用が困難な方へのサービス	13
(4) 全域サービス	14
(5) 図書館資料の案内、貸出・予約	15
(6) レファレンスサービス	16
2 地域の特徴を生かした運営	17
(1) 施設	17
(2) 図書館管理システムと資料搬送	18
(3) 情報通信環境	18
(4) 市民との協働	19
(5) 図書館資料	20
(6) 郷土資料（地域・行政資料）	20
(7) 運営	21
3 一関市の人口推計から見た課題	22
4 市民アンケートからみた課題	22
5 前計画の評価	23
IV 前計画の基本目標と数値目標	24
1 基本目標	24
2 数値目標	24
V 基本理念	25
VI 一関市立図書館運営方針	25
VII 行動計画・目標指標	26

VIII	サービス計画	27
1	情報拠点としての基盤と運営体制を整え、地域の活動を支援する図書館	27
(1)	図書館資料	27
(2)	運営	28
(3)	施設	29
(4)	全域サービス	30
(5)	デジタル推進による利用者サービス、読書環境の充実	32
(6)	図書館管理システムと資料搬送	32
(7)	情報通信環境と図書館情報発信	33
2	一関の文化を育み、継承する図書館	33
(1)	郷土資料（地域・行政資料）	33
(2)	地域情報拠点	34
3	すべての市民に情報を届ける図書館	34
(1)	図書館資料の提供	34
(2)	図書館資料の案内・レファレンスサービス	35
(3)	乳幼児・児童・青少年へのサービス	35
(4)	成人へのサービス	37
(5)	図書館利用が困難な方へのサービス	37
(6)	学校図書館支援	38
4	学びの成果を挑戦につなげる図書館	39
(1)	市民協働による読書活動の推進	39
(2)	各種講座の開講	40
(3)	課題解決支援	40
(4)	地域コミュニティの場	40
IX	前期サービス計画	42
	一関市立図書館に関する市民アンケート	44

■用語解説

計画書の本文において、用語の後に（※番号）のついている語句については、巻末の用語集にて用語の説明を記載しています。



表紙挿絵 千葉 朋子さん（令和5－6年度 絵本作家育成講座 受講生）

はじめに

一関市教育委員会では、市立図書館の今後 10 年間の目指す姿を明らかにし、より適切な図書館サービスを展開するため、平成 28 年 2 月に「一関市立図書館振興計画（平成 28 年度－令和 7 年度）」と同計画に基づく前期サービス計画を、そして令和 3 年 1 月に後期サービス計画をそれぞれ策定して、図書館運営の基本としてきました。

これらの計画では、以下の 2 つの事項を基本方向として掲げ、具体的な施策の展開としてそれぞれの取組を着実に進めてきました。

まず 1 つ目は、「読書環境の充実」として、市民の知る自由を保障し、地域における情報拠点としての役割を果たすため、多様な読書意欲に応え、自主的な学びへの取り組みを多面的に支援してきました。

次に 2 つ目は、「地域の特色を生かした運営」として、図書館がコミュニティの情報拠点として、地域の課題解決や夢の実現のための学びと情報提供を通して、地域の自立などを支援しながら、地域の特色を生かした個性ある図書館づくりに努めてきたところです。

この間、図書館を取り巻く社会的な環境が大きく変わりました。インターネット上で提供される情報資源が増大し、書籍・雑誌の印刷媒体から電子媒体への移行が一層進展しています。社会全体の少子高齢化、国際化が進む中で、市民の生涯にわたる学習活動に対するニーズもますます高まっています。

令和 4 年に I F L A（国際図書館連盟、International Federation of Library Associations and Institutions）は、「ユネスコ公共図書館宣言 2022」を発表しました。ここには「社会的包摂の強化」、「全年齢において学習や創造性を重視すること」、「情報、識字、教育、及び文化に係る領域でより公平で人間らしい持続可能な開発目標（SDGs）への支持」、「知識が富の源泉となる社会」、「情報格差の回避」、「情報リテラシーに関する啓発情報」などの提案が行われています。

以上のような背景から、「一関市立図書館振興計画（令和 8 年度－令和 17 年度）」は、前計画を見直し、一関市立図書館の「基本的運営方針」をより明確に表すとともに、新たな「一関市教育振興基本計画（令和 8 年度－令和 17 年度）」やそれに含まれる「子どもの読書推進計画」の計画期間における人口減少による影響をできるだけ少なくし、地域の活力を高め、将来にわたり暮らし続けたいまちとするために、図書館の機能の充実を図ることが必要です。

今を生きる私たち、そしてこれから生まれてくる子どもたちが、幸せを実感しながら暮らすことができるよう、この 10 年間は、一人ひとりが手を携えてまちづくりに取り組む期間であり、そのような中であって、図書館は地域の情報拠点として読書環境の整備等様々な取組を通じ、地域の人材を活かした学びの場の提供や、まちを挙げての先進的な取組を推進するなど、まちづくりや人づくりにつながる読書の好循環を創出していく重要な役割も担っています。

こうしたことを踏まえて、当市における図書館の理念、新しいサービスの方向性を示す指針となる計画を策定するものです。

一関市教育委員会 教育長 時枝 直樹

I 計画策定の趣旨

I-1 計画策定の趣旨

一関市教育委員会は、市立図書館のあり方とその振興を図るため、現状と課題を明らかにするとともに、利用にかかる具体的な数値目標とそのための振興方策を策定し、図書館行政の基本とする「一関市立図書館振興計画」（以下「前計画」という。）を平成27年度に策定しました。

前計画は令和7年度が期間の最終年度であることから、新たに令和8年度から令和17年度までの計画策定を行うものです。

この計画は、「一関市総合計画基本計画」及び「一関市教育振興基本計画」の分野別計画であり、国及び県などの動きや社会経済情勢の変化に対応したものとし、前計画の評価と検証を踏まえ策定したものです。

I-2 計画の目標年次、計画期間

(1) 計画期間 令和8年度－令和17年度(2026年度－2035年度)

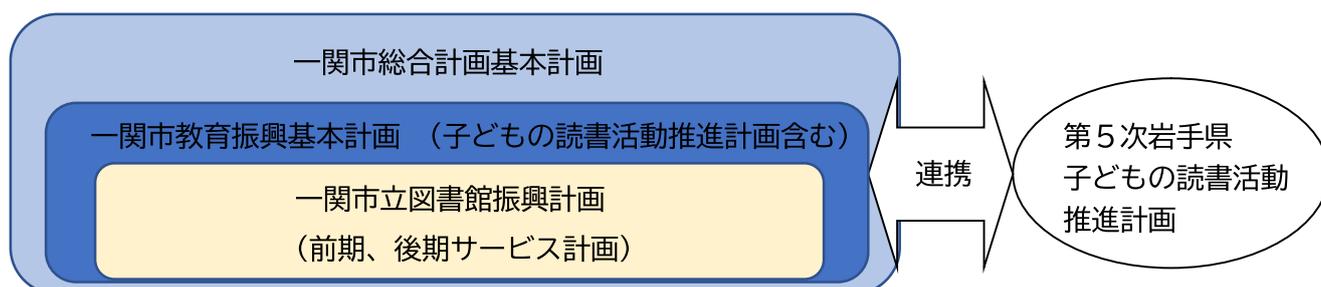
(2) サービス計画

前期サービス計画 令和8年度－令和12年度（2026年度－2030年度）

後期サービス計画 令和13年度－令和17年度（2031年度－2035年度）

令和7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
計画策定	一関市立図書館振興計画期間									
	前期サービス計画					後期サービス計画				

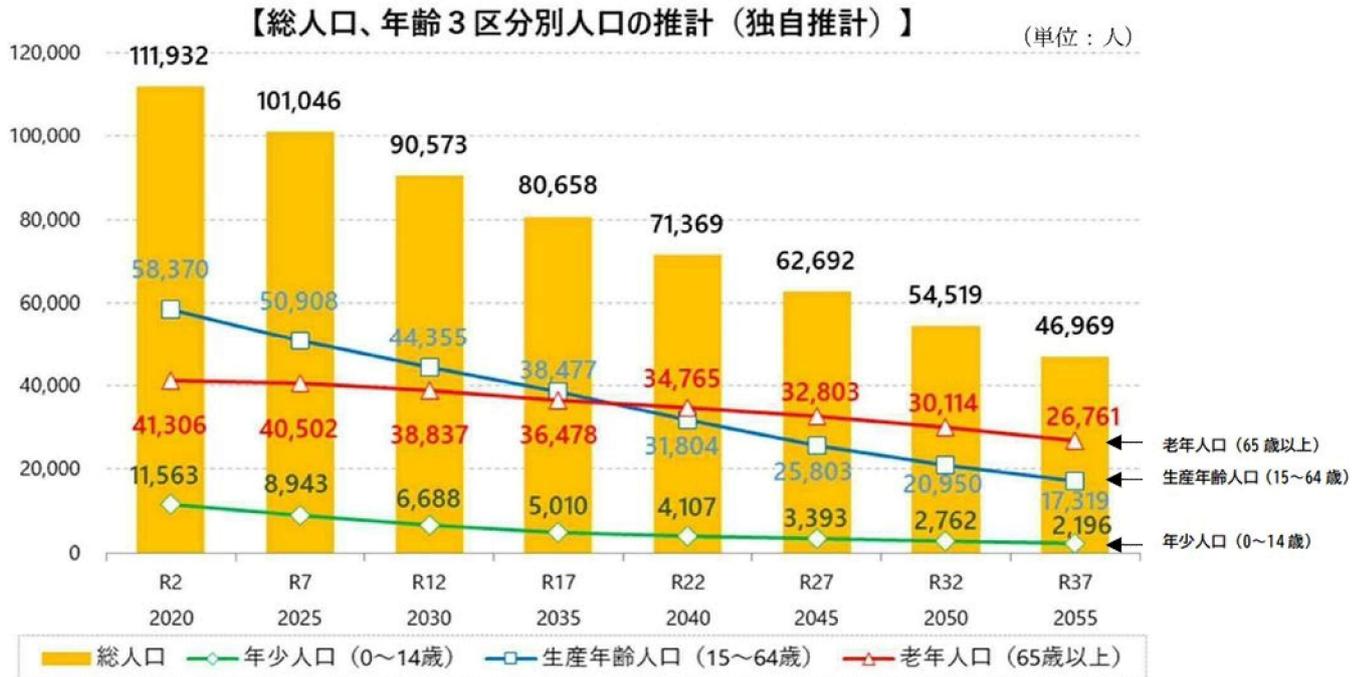
I-3 計画の体系図



Ⅱ 現状と課題(現状分析)

Ⅱ-1 人口の将来推計

一関市の人口は、今後も減少傾向が続き、令和17年度には8万人台となる見込みです。今後も少子高齢社会は続くと推計される中で、市民一人ひとりが自身の能力を維持、向上し続けるためには、社会教育の中でも知識・情報拠点としての図書館の役割は重要であり、各年齢に対応したサービス、例えば、高齢者への大活字本(※③)の普及などの工夫が必要です。また、転入者に対するより一層の図書館サービスの周知も必要です。



※この総人口は年齢不詳分を含むため年齢3区分別人口の合計と一致していません。

資料 一関市人口ビジョン(令和7年10月改訂)

Ⅱ-2 データで見る図書館の現状

各図書館の概要は次のとおりです（*1）。

一関図書館は平成26(2014)年に開館した中核館であり、他館と比較すると延床面積約7,900㎡を有する規模の大きな施設となっています。一方、大東図書館や千厩図書館は築40年以上が経過しており、施設の老朽化対策や設備更新の検討が必要です。また、室根図書館や藤沢図書館は小規模であり、スペースや機能面での制約が見られます。

一関図書館は、市内最大の40万点以上の資料を所蔵し、約33万点の個人貸出の実績があります。

個人貸出点数は、多い順に一関図書館、川崎図書館、花泉図書館となります。

団体貸出点数は、大東図書館、一関図書館、藤沢図書館が一定の実績を上げています。

利用者数は館ごとの立地や利便性、周辺人口との関係を示すものであり、今後のサービスの検討にあたっての重要な指標です。

【一関市立図書館の概要】

	施設		資料			利用者	
	建築 (年)	延床面積 (㎡)	資料数(*2) (点)	貸出点数(点)		貸出者数 (人)	登録数 (登録率)
				個人	団体		
一関図書館	H26年2月 (2014年)	7,904.83	403,952	328,748	24,811	85,188	65,525人 (62.7%) 注： 令和7年 3月31日 現在住民 基本台帳 世帯・人 口調によ る人口 104,494人
花泉図書館	H25年7月 (2013年)	999.45	83,199	71,129	8,001	16,338	
大東図書館	S56年7月 (1981年)	1,284.65	161,458	45,619	31,448	12,448	
千厩図書館	S43年2月 (1968年)	859.82	103,465	62,398	10,438	15,828	
東山図書館	H21年9月 (2009年)	656.4	75,554	29,426	10,322	8,488	
室根図書館	H22年12月 (2010年)	446.6	51,006	25,129	7,640	6,341	
川崎図書館	H10年12月 (1998年)	794	115,298	88,204	6,322	18,534	
藤沢図書館	H9年12月 (1997年)	277	51,417	22,878	12,069	6,817	
計			1,045,349	673,531	111,051	169,982	

*1 数値は令和6年度分の実数

*2 視聴覚資料等を含む

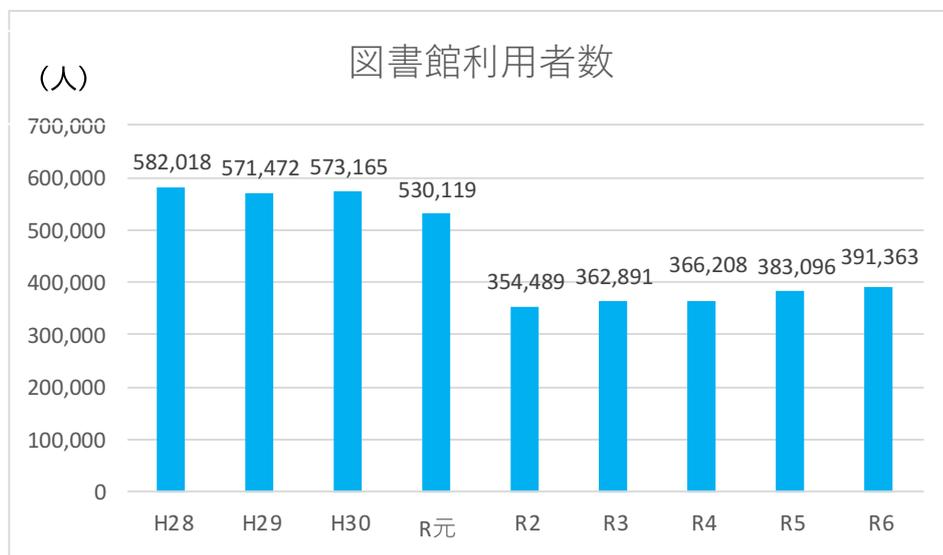
資料 令和7年度一関市図書館要覧
令和7年度図書館・公民館図書室等実態調査
住民基本台帳世帯・人口調（令和7年3月31日現在）

市立図書館の利用状況は次のとおりです。

令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、一時休館または一部サービスの停止を行った影響で、利用者数が減少しました。

これ以後、様々な取組を行った結果、現在もコロナ禍前の利用者数には戻っていないものの、毎年利用者数は増加しています。

そのような中であっても、本に親しむ機会や、図書館を訪れるきっかけをつくることに貢献できました。



資料：図書館・公民館図書室等実態調査(令和7年度)

平成27（2015）年度から令和元（2019）年度までは年間貸出点数、1人当たり貸出点数ともに高水準を維持しており、全国平均を大きく上回っています。

令和2（2020）年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、貸出点数が大きく減少し、現在もコロナ禍前の貸出点数には戻っていない状況です。

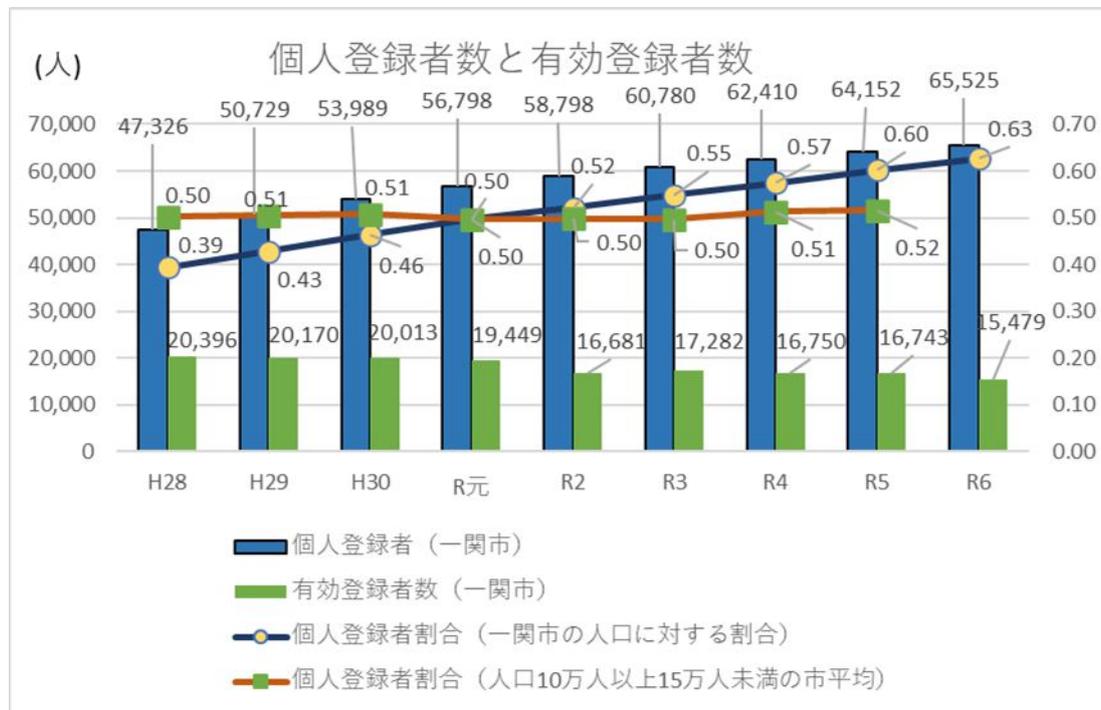
しかしながら、全国と同規模（人口10万人以上15万人未満）の市の平均を常に上回っており、図書館の利用は比較的高い水準にあるといえます。



資料：図書館・公民館図書室等実態調査、日本の図書館 統計と名簿(令和7年度)

個人登録者数は平成 27（2015）年度の数値を基準とすると順調に伸びており、人口に対する割合は令和 2（2020）年度には全国と同規模（人口 10 万人以上 15 万人未満）の市の水準を上回る結果となりました。

図書館を 1 年間に利用した実人数は、年間貸出点数と同様に令和 2（2020）年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により減少し、現在もコロナ禍前の水準には戻っていない状況です。



資料：図書館・公民館図書室等実態調査、日本の図書館 統計と名簿、公共図書館調査（令和 7 年度）

Ⅱ－3 図書館利用の状況

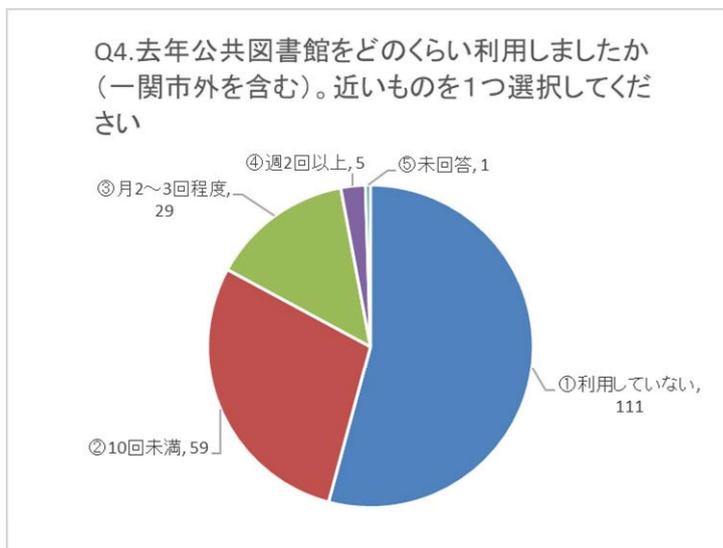
一関市民へのアンケート調査からの現状と課題

令和6年度に行った調査では、図書館を利用していない人の割合が、全国平均の59%よりやや低い54%となっています。

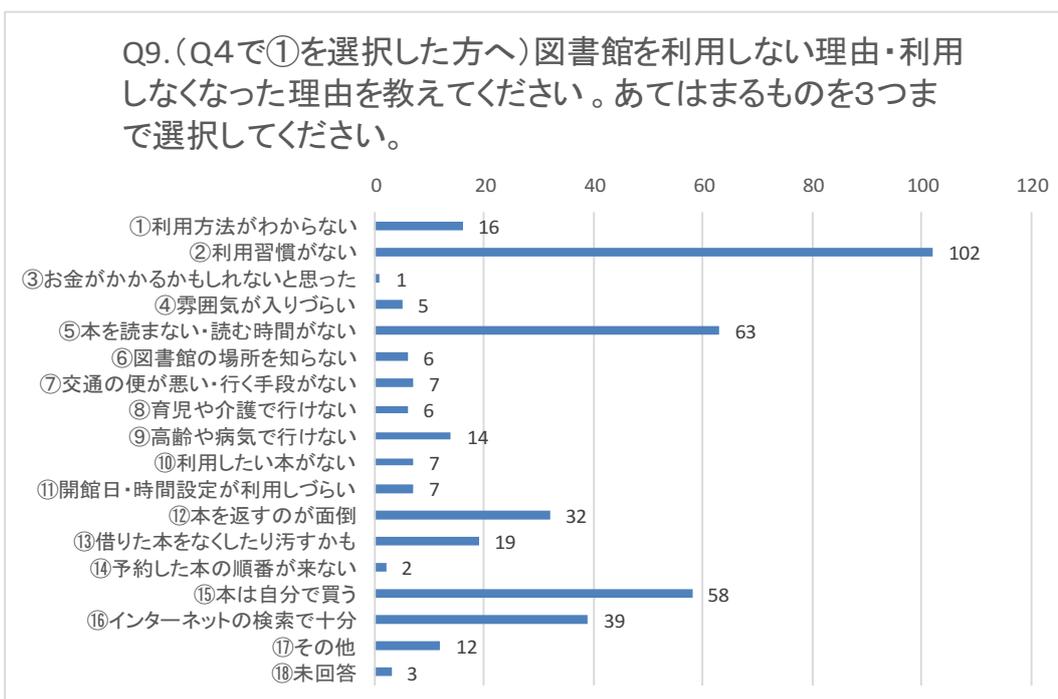
図書館を利用していない理由は、多い順に「利用習慣がない」、「本を読まない・読む時間がない」、「本は自分で買う」、「インターネットの検索で十分」、「本を返すのが面倒」でした。

このことから、図書館をより利用しやすくすることや、図書館の魅力を伝えること、日常生活との接点を増やすことなどが検討課題として挙げられます。

また、生活の中に図書館への来館時間を設けるような習慣づけが不足しています。さらに、個人で買うことが難しい本の資料選定の工夫や、図書館利用の効率化も課題です。

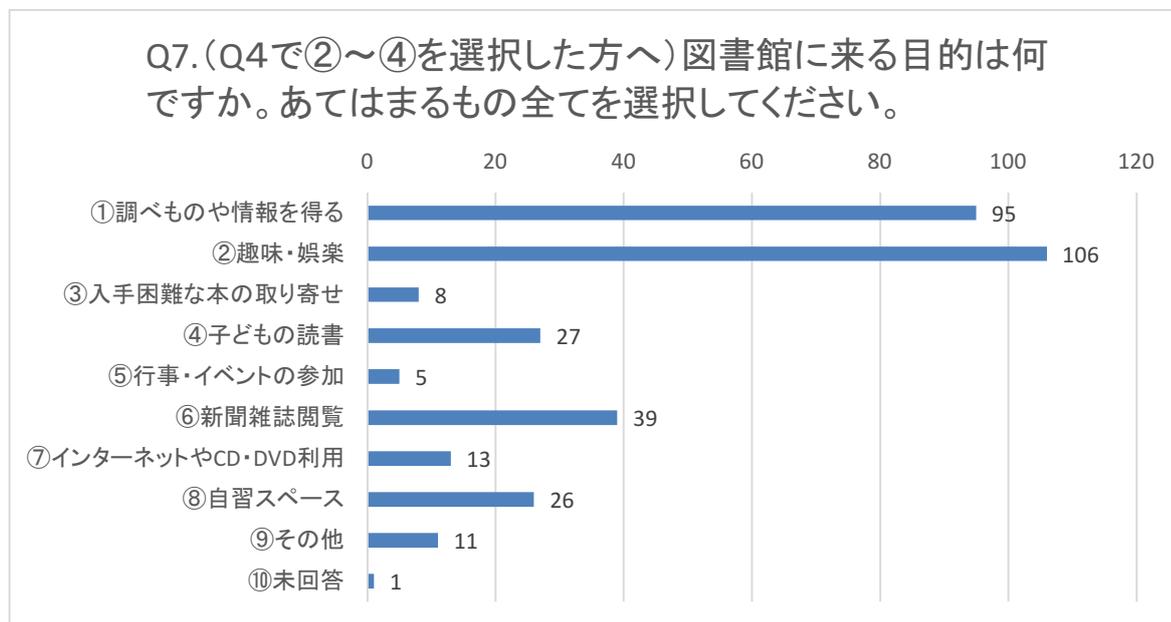


以降 一関市立図書館アンケート 令和6年

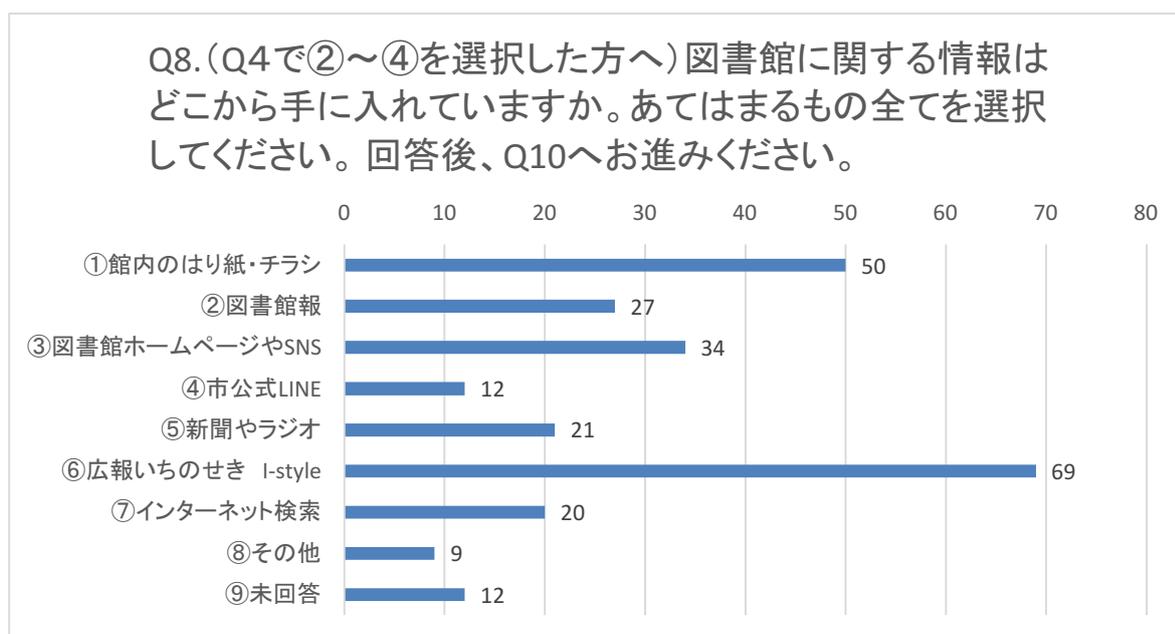


図書館に来る目的は、多い順に「趣味・娯楽」、「調べものや情報を得る」、「新聞雑誌閲覧」、「子どもの読書」、「自習スペースの利用」でした。地域別でも、「趣味・娯楽」と、「調べものや情報を得る」が多い傾向でした。

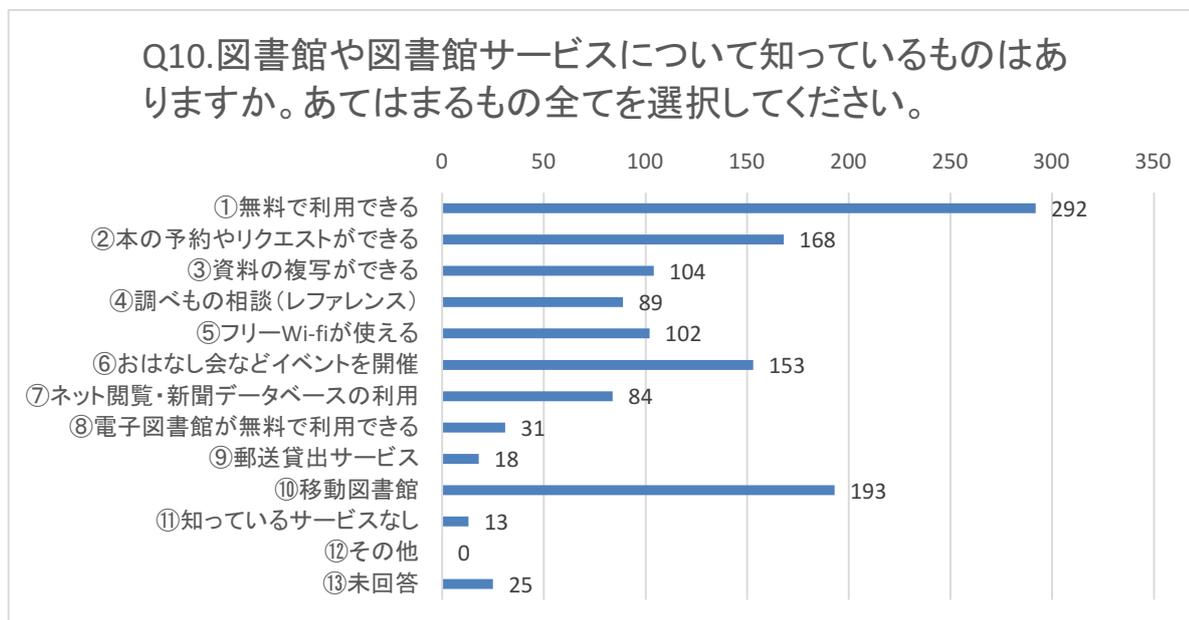
これからの図書館にとっても、調べものや情報を得るための利用はもちろん、趣味や娯楽、自習スペースの確保や利用の工夫にも検討の必要があります。



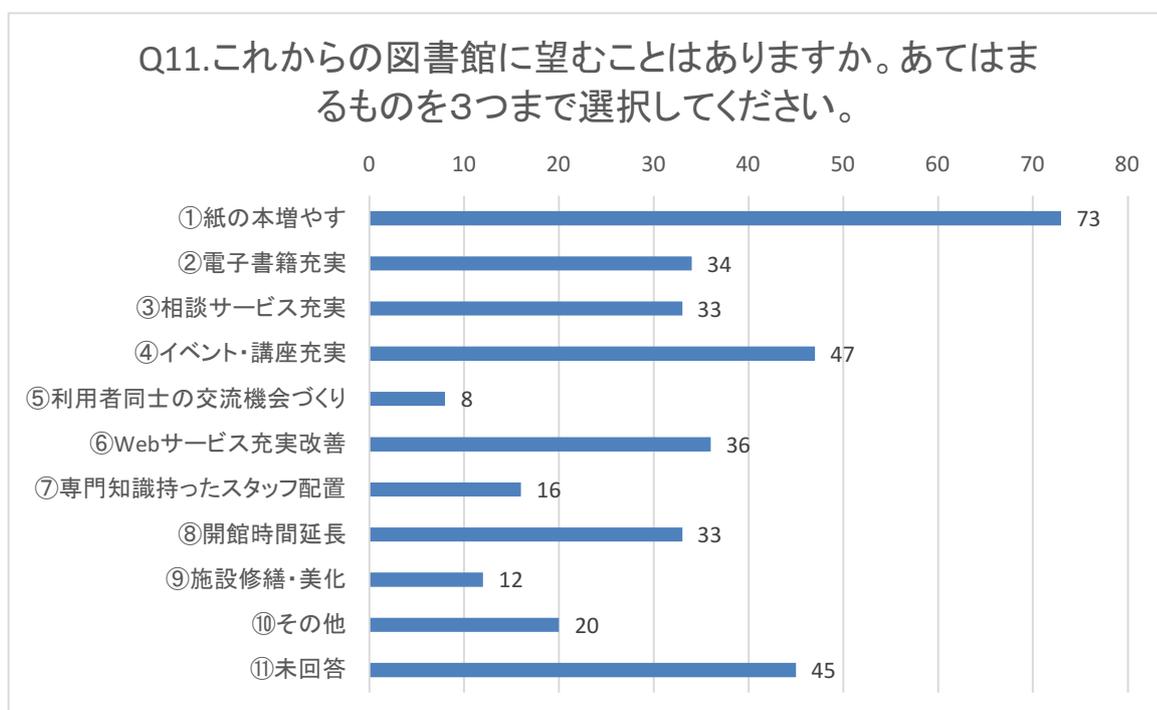
図書館に関する情報の収集は、どれも有効な手段ですが、その中でも、「広報いちのせき I-style」や、「館内のはり紙・チラシ」が多く活用されており、次に「図書館ホームページやSNS（※②）」、「インターネット検索」による収集手段でした。



図書館サービスについて知っているものは、多い順に「無料で利用できる」「移動図書館」「本の予約やリクエストができる」「おはなし会などイベントを開催」でした。特に、「無料で利用できること」や、「移動図書館」は、全館で認知度が高く、一方で、来館が困難な方へ本を郵送貸出するサービスは、認知度が低い回答となっています。これは利用対象者が限定されているためと分析します。



図書館に望むこととして、「紙の本を増やす」、「イベント・講座の充実」、「相談サービスの充実」、「開館時間延長」、「Webサービス充実改善」が求められています。



Ⅱ-4 各図書館の特徴

一関市立図書館は、一関地域に設置する中央館である一関図書館及び花泉、大東、千厩、東山、室根、川崎、藤沢の各地域に設置する地域館の全8館で構成されています。それぞれが地域の特性を取り入れた特色あるコレクションを構築しており、おはなし会や館外サービス、各種イベントなど、各館の個性を生かして市民の生涯学習を支援する様々なサービスを提供し、地域の方々から親しまれています。

一関図書館

一関図書館は、中心市街地に立地し、市内各図書館をまとめる中央館機能を兼ね備えており、図書館スペースはワンフロアのバリアフリーで利便性が高く、誰でも気軽に利用できる図書館です。

豊かな自然、歴史、文化を背景に、一関市ゆかりの大槻文彦が編纂した「言海」にちなみ国語辞典のコレクションを展示する「言海」コーナーなど郷土資料（※⑩）の収集に力を入れています。

本やデータベースなど多彩な資料を活用し、関係機関と連携しながら行政課題や社会の情勢に関連した企画展やレファレンス（※⑤）などを行い、多様な学習ニーズに対応しています。

乳幼児や幼児向けおはなし会やイベントなどを積極的に開催しています。

身近で図書館サービスが利用できるよう移動図書館車「わかくさ号」を定期的に運行しています。

読書普及員（※⑳）を通じて学校への図書の貸出やブックトーク（※㉔）などを実施し読書活動を支援しています。

図書館の中にカフェもあり、家族で長時間楽しめる図書館です。

花泉図書館

花泉図書館は、市内産の木材を活用して建てられ、花籠をイメージしたウッドホールが特徴的な建物で、木の温もりを感じる図書館です。

宮城県境に位置し、生活圏である栗原市や登米市からも多くの方が訪れています。

地名にちなみ「花」（植物）に関する資料の収集に力を入れ、「花」に関連した講演会やワークショップ（※㉘）、企画展などを数多く実施しています。

小学校、中学校が隣接し、図書館見学や利用ガイダンスの受け入れ、学級文庫の貸出や訪問個人貸出、出前おはなし会など、学校と連携した取組にも力を入れています。

図書館サポーターがおはなし会や排架作業、図書館まつり等で積極的に活動しています。

大東図書館

大東図書館は、JR大船渡線摺沢駅から徒歩5分の場所に位置しています。

大東地域は市内で2番目に広い面積を有し、多くの保育施設や学校があります。大東図書館では、長年地域に親しまれている移動図書館車「なぎさ号」を毎月運行し、子どもたちが様々な本に親しむ機会を提供しています。

また、図書館への来館が困難な方へのサービスとして、地域内各施設への配本所（※㉑）の設置、団体貸出の実施にも力を入れています。

地域では、様々な農産物の栽培や自伐型林業など、豊かな自然を背景とした産業が展開されています。また、令和7年には渋民地区に市内4カ所目となる道の駅だいとうが新たにオープンしました。こうした特色を踏まえ、地域の各種産業の振興に役立つ資料の収集に力を入れています。

千厩図書館

千厩図書館は、日本たばこ産業原料事務所の建物を改築し、平成14年に開館しました。

千厩地域は源義経の愛馬「大夫黒」に代表される馬産地として知られ、地名も馬に由来しています。また養蚕や葉煙草が盛んだったこともあり、馬や蚕、葉煙草に関する資料を重点的に収集しています。

館内にはミニシアターがあり、毎月子ども向け、大人向けに、話題の作品を上映しています。

開館以来、学校図書館への支援を行っており、出張貸出や調べものの資料提供など、学校と連携して児童、生徒への読書推進の取組を進めています。

また、地域の個人やサークルの活動発表の場として、作品展の定期的な開催や、春、秋の古本市のイベントなど、千厩図書館友の会などの市民活動団体と連携し、事業を実施しています。

東山図書館

東山図書館は、東山地域交流センターに併設する複合施設型の図書館です。

日本の公開図書館の創設者で地域出身の青柳文蔵の行跡にちなみ、日本最初の公開図書館と称される青柳文庫の土蔵を模した入口と、木をふんだんに使った温もりのある明るい館内が特徴です。

移動図書館車「やまゆり号」が地域内を運行し、幼保こども園や学校、高齢者施設などへ本を届けています。館内の「おはなしの部屋」では定期的におはなし会を開催するなど、幼少期から本に親しむきっかけを作り、市民の知的関心や地域課題に応える図書館を目指しています。

東山地域には日本百景・狛鼻溪、日本最古の鍾乳洞と言われている幽玄洞のほか、宮沢賢治が技師として活躍した旧東北砕石工場があり、また地域の伝統工芸品として東山和紙、紫雲石硯などがあります。こうした特色ある地域の情報や資料を収集し、特設コーナーで紹介しています。

室根図書館

室根図書館は、一関市役所室根支所に併設する図書館です。

宮城県境に位置し、生活圏である気仙沼市からも多くの方が訪れています。

自然豊かな室根地域には、シンボルとしての室根山や環境保全活動で全国的に知られる「森は海の恋人植樹祭」があります。また、姉妹・友好・交流都市である宮城県気仙沼市、埼玉県吉川市、和歌山県田辺市・新宮市、北海道根室市と交流があります。こうした郷土や姉妹都市などに関する資料を重点的に収集しています。

小・中学校、専門学校での館外貸出、室根市民センター（※⑯）事業と連携した出張貸出、こども園、高齢者施設でのおはなし会など、館外サービスを実施しています。また、小学生から成人を対象に、おすすめ本「POP（※㉞）」コンテストを実施しています。

川崎図書館

川崎図書館は、川崎市民センターに併設する複合施設型の図書館です。施設は、北上川の交通の要衝として発達した地域の歴史にちなんだデザインです。

一関市の中心部に位置し、川崎地域以外からの来館者も多く、地域住民数に比して、貸出点数も多いことにより、中央館に次ぐ市内2番目の貸出点数を記録しています。

複合施設である利点を生かし、併設する川崎市民センターと連携した講座やイベントに力を入れています。

北上川や郷土に関する資料、ロングセラーを中心とした児童書、絵本を収集するほか、コミックも多数所蔵しています。

藤沢図書館

藤沢図書館は、藤沢文化センターに併設する複合施設型の図書館です。

当館は、中山間地域に位置し、かつ小規模館であることから、特に館外サービスに力を入れており、こども園や高齢者施設などへ訪問し、貸出とおはなし会を行うなどの本と出会う機会を提供しています。

藤沢地域は一関市の南端に位置し、その約6割が山林です。観光施設が豊富で、大籠キリシタン殉教公園、地域内に3つあるダムのほか、岩手サファリパークやArk館ヶ森の牧場などが見どころです。また、毎年8月には「藤沢野焼祭」が開催され、多くの人を訪れます。

藤沢野焼祭にゆかりのある岡本太郎や縄文関係の資料、キリシタンやダムに関する資料、藤沢地域出身の楡周平作品など、地域にゆかりのある人物、事物に関わる資料を重点的に収集しています。

Ⅲ 課題の整理

Ⅲ—1 読書環境の整備

(1) 乳幼児・児童・青少年へのサービスと学校図書館支援

【現状】

乳幼児・児童・青少年へのサービス共通

成長段階に合わせた、ブックリストを作成し配布しています。

乳幼児サービス

乳幼児健診時や図書館内でおはなし会を実施しています。

児童サービス

移動図書館車運行による学校への配本、学校や図書館での児童向けおはなし会や、行事等を実施しています。

青少年へのサービス（YAサービス）

ヤングアダルト資料（※④）の購入やそれに伴う展示、POP（※③）作成、中学生や高校生の職場体験受入れ等を実施しています。

学校図書館支援

学校支援は、学校との連携・資料貸借等に取り組んでいます。

【課題】

学校図書館支援

学校と市立図書館との連携には強化の余地があります。

図書館職員と読書普及員（※③）、学校図書館担当教諭が合同で研修会を開催するなど連携を深める機会や場を増やし、効率的な運営をする必要があります。

【新たな計画での対応】

（以降の章の各番号に対応した形で記載しています。）

Ⅷ サービス計画（具体的な施策）以下同じ

3-(3)

学校等と連携し、調べ学習を支援します。

3-(6)

図書館職員と読書普及員、学校図書館担当教諭を対象とした合同研修会の開催などにより、知識や技術の向上と連携強化に努めます。



おはなし会



ワークショップ



学校支援書架

(2) 成人へのサービス

【現状】

成人向けの図書を充実するとともに、ニーズに合わせた資料をそろえることにより、貸出を伸ばしました。

大人向けのおはなし会を開催し、特定の本について感想を述べ合いました。これにより、読書の楽しさを共有し、新たな視点や知識を得ることができました。

講師を招いて、健康、金融、農業、テクノロジーなどをテーマにしたワークショップ（※④⑧）やセミナーを開催し、知識を深め、図書館の利用者の拡大につなげました。

朗読会や市民の会の活動の展開を広めています。

読書会（※⑧）を通じて成人を中心としたコミュニティが形成されています。

【課題】

利用者のニーズの把握

成人利用者のニーズは多様であり、すべてのニーズを満たすことは容易ではありません。

利用者の意見要望を収集し、サービスの改善に反映させることが重要です。

空間の制約

図書館の物理的な空間が限られている場合、大規模なイベントやワークショップの開催が難しいことがあります。

また、多様なサービスを提供するための専用のスペースが確保できないことも課題です。



ワークショップ

【新たな計画での対応】

3-(4)

日常生活に身近な情報や暮らしに役立つ情報、時事情報などをはじめとする市民のニーズに即した資料を収集、提供します。

1-(3)

館内のレイアウトや動線を見直し、利用者の行動やニーズに応じた空間配置を工夫します。



企画展

(3) 図書館利用が困難な方へのサービス

【現状】

移動図書館車の運行区域の拡大は、利用者の拡大に効果がありました。

高齢者、障がい者、外国人など図書館の利用が困難な方へのサービスとして、バリアフリーを目指した施設整備や外国語案内表示、パンフレットの作成を行いました。

高齢者の利用を促進するため、大活字本（※⑳）や高齢者向け紙芝居の購入、高齢者施設でのおはなし会の開催、館内への拡大読書器の設置、老眼鏡の貸出などを行いました。大活字本の増加は、高齢化率の上昇に対応して利用者からも喜ばれています。また、高齢者施設への団体貸出の拡大に努めました。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号)」(以下「障害者差別解消法」)の施行に伴う対応を行いました。

国際化の進展により外国人の利用登録状況の把握や資料、目録（※㉑）の整備、図書館管理システムや利用案内などの多言語化への対応など、外国人や外国語を学ぶ日本人など様々な対象へのサービスが求められています。

【課題】

在宅高齢者への支援のため、ホームヘルパーや宅配業者との協力体制構築などの取組を検討する必要があります。

障がい者のニーズを把握するとともに、資料、機器、目録の整備や利用案内の作成、他機関との連携や宅配サービスの実施に向けて、検討を進めることなどが求められています。

国際リニアコライダー（ILC）（※㉒）誘致の状況に応じ、国際化の進展に向けた対応が必要です。

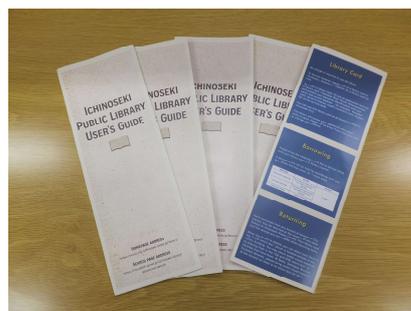


高齢者おはなし会

【新たな計画での対応】

3-(5)

図書館利用が困難な方へ、一人ひとりの個性やニーズに合わせたサービスや、読書バリアフリー（※㉓）に対応したサービスを柔軟に展開していきます。



利用案内（外国語）

(4) 全域サービス

【現状】

移動図書館車などにより、幼保こども園、小学校、中学校、専門学校、高齢者サロンや高齢者施設、その他のステーションなどで貸出、配本等を実施しています。

図書館利用が困難な方々へ本や情報を提供することで、情報アクセスの平等性の向上を図り、読書習慣の形成を促しました。

移動図書館車などにより市内全域へサービスを行う計画を策定し、これまでのステーションや配本所（※⑳）の見直しを行い、新たに花泉、千厩、川崎地域への移動図書館車巡回を開始しました。

移動図書館車については、老朽化した車両を更新し、より効率的な運行を計画しました。

【課題】

学校や市民センター（※⑯）といった公共施設だけでなく、民間施設との連携も必要ですが、現在は民間施設でも公共的な利用が可能な施設に限られています。

【新たな計画での対応】

1-(4)

学校や市民センター（※⑯）、民間施設と連携し、配本所（※㉑）の設置や団体貸出などを行います。



移動図書館車「わかくさ号」



移動図書館車「なぎさ号」



移動図書館車「やまゆり号」

(5) 図書館資料の案内、貸出・予約

【現状】

図書館管理システムの統合による蔵書の一元管理により、市民への資料の貸出総点数や予約受付件数は大きく増加しました。

図書館資料の案内は、一関市立図書館ホームページをはじめ、市広報や各館で発行している図書館報を中心に積極的に実施しました。

LINEなどのSNS（※②）なども利用し、より多くの市民があらゆる機会に簡単に情報を得られるようにしました。また、一関コミュニティFMや一関ケーブルネットワークも活用し、幅広い情報の発信に努めました。

地域の特色を活かした企画展や、他機関等と連携した企画展を開催し、各分野の資料を広く紹介しました。

各種講座や講演会を開催し、多くの資料を紹介して利用につなげました。

利用者が求める資料に迅速にたどり着けるよう、図書館システムに郷土資料（※⑩）の内容を詳しく入力しました。



市公式LINE

【課題】

貸出は図書館サービスの基本であり、それを支えるための予約サービスの工夫も重要です。

図書館を利用したことのない市民に、利便性が向上した図書館サービスを知ってもらうための取組が必要です。

【新たな計画での対応】

1-(7)

多様化する生活様式に対応した読書環境を整備し、図書館情報をわかりやすく発信します。



郷土作家文学講座



図書館報
(図書館だより)

(6) レファレンスサービス

【現状】

全館で図書館資料を使った調べものや探しものなどを行うレファレンスサービス（※④）を実施しました。

専門職員（※②）からの正確な資料や情報の提供により、以下の6つの効果を得られました。

利用者の満足度向上 専門職員が質問に対して適切な情報を提供することで、利用者の情報ニーズを満たし、満足度が高まりました。

情報リテラシー（※⑰）の向上 利用者が情報を効果的に探し、評価し、活用するスキルを向上させる支援を行うことにより、利用者の情報リテラシーが向上し、自律的に情報を活用できるようになりました。

教育支援 学生や研究者がリサーチを行う際に、必要な資料や情報へのアクセスをサポートし、学術的な成果を向上させる手助けとなりました。

時間の節約 利用者が自分で情報を探す時間を短縮し、迅速に必要な情報を得ることにより、利用者の時間と労力を節約することができました。

信頼性の高い情報提供 図書館員が信頼性の高い情報源を提供することで、利用者が正確で質の高い情報を得ることにより、誤情報や不確かな情報に惑わされるリスクを減少させることができました。

専門的な相談 特定の専門分野に関する質問や調査に対して、専門職員がアドバイスを提供し、深い洞察を得る手助けとなりました。

【課題】

利用者へレファレンスサービスを行っていることの一層の周知が必要です。

また、受動的にレファレンスサービスを行うだけでなく、図書館からの能動的な情報（市政情報や地域情報）発信を行うことも求められています。

専門職員、時間、予算等の効率化が求められている中で、利用者へ適切なサポートを提供していく工夫が必要です。

【新たな計画での対応】

3-(2)

レファレンスサービス（※④）について周知するとともに、データベース化したレファレンス事例を公開し、利用を促進します。

1-(2)

市民の多様な読書要求に応える充実した図書館サービスを提供するため、専門職員を配置します。また、職員の資質を向上させるため、研修の機会を確保します。

Ⅲ—2 地域の特色を生かした運営

(1) 施設

【現状】

	建築 (年)	構造	延床面積 (㎡)	収蔵 能力(冊)	令和6年度末 蔵書冊数(冊)	備考
一関	H26(2014)	独立鉄筋コンクリート造3階建	7,904.83	494,000	403,952	
花泉	H25(2013)	独立木造1階建	999.45	74,000	83,199	
大東	S56(1981)	独立鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階建	1,284.65	107,200	161,458	
千厩	S43(1968)	独立鉄筋コンクリート造2階建	859.82	62,000	103,465	施設転用
東山	H21(2009)	東山市民センター併設木造2階建	656.40	50,000	75,554	複合施設
室根	H22(2010)	室根支所内 鉄筋コンクリート造3階建(1階、2階)	446.60	44,880	51,006	施設転用
川崎	H10(1998)	川崎市民センター併設 鉄筋コンクリート造平屋建(一部2階)	794.00	79,500	115,298	複合施設
藤沢	H 9(1997)	藤沢文化センター併設 鉄筋コンクリート造2階建	277.00	45,000	51,417	複合施設

一関、花泉及び東山図書館の新館整備、大東図書館の増改築、室根図書館の移転整備などを行い、各図書館の蔵書能力の拡大、バリアフリー化など利用者サービスの向上を図りました。

大東、千厩、室根、川崎及び藤沢図書館の照明のLED化を図り、読書環境の向上に寄与しました。

【課題】

今後、施設転用で増改築した千厩図書館の老朽化対策や大東図書館の修繕、藤沢図書館の狭隘化の解消を図る必要があります。

各図書館の補修頻度が高まっています。また、適切な管理を行うため計画的な施設改修が求められています。

【新たな計画での対応】

1-(3)

建築後50年以上経過する千厩図書館、40年以上経過する大東図書館や、施設の狭隘化が課題となっている藤沢図書館をはじめ、各館の施設に関する課題については、公共施設等総合管理計画などにより、優先順位を明確にしながら、必要な修繕・改修を段階的かつ着実に進め、長期的に使用できる環境を保ちます。

(2) 図書館管理システムと資料搬送

【現状】

ＩＣタグ（※①）を使用した図書館管理システムに更新しました。
図書館間の資料搬送を定期的に行い、利用者の利便性と、資料の有効活用を図りました。

【課題】

今後も新たな利用者ニーズに対応した図書館サービスの向上や、多様な運用状況に合致したシステムの設定、市立図書館と学校図書館の一体的な配送システムへの工夫などが必要です。

【新たな計画での対応】

1-(6)

8館の資源（人、資料）を有効に利用できる運営を行います。

図書館管理システムと資料搬送システムの円滑な運用を図るとともに、8館の資料と専門職員（※②）が有する知識を市民に提供します。



図書館システム端末

(3) 情報通信環境

【現状】

全館に利用者用インターネット端末を設置したほか、公衆無線ネットワークを整備し、情報通信環境を整えました。さらに、一関図書館にオンラインデータベース（※⑥）を充実させ、利用者の要望に応えられる環境をつくりました。

【課題】

堅牢なセキュリティ対策を講じるとともに、地域の情報拠点として、更に高速で快適な情報通信環境の整備が求められます。

【新たな計画での対応】

1-(5)

デジタル技術を図書館サービスに積極的に取り入れ、快適な読書体験につなげます。

(4) 市民との協働

【現状】

一関市図書館協議会や各図書館運営協議会等の意見により、図書館サービス計画や図書館奉仕の改善に役立てました。

アンケート調査により市民のニーズや要望を把握して事業を進めたことにより、来館者が増加傾向にあります。

【課題】

図書館サポーターの高齢化や、各団体の構成員が固定化しているため、図書館サポーターの後継者の育成が求められます。

今後は社会の課題がますます複雑化し、多様化することから、図書館が単なる情報提供の場ではなく、人々が集まり、協力し、学び合い、支え合う場所としての役割をさらに強化していく必要があります。

【新たな計画での対応】

4-(1)

一関市図書館協議会や各図書館運営協議会における意見等を図書館運営に反映し、地域に密着したサービスを展開します。

4-(2)

図書館サポーターの活動紹介や若年層等に向けた養成講座の開催などにより、長期的な活動を支援します。

4-(3)

市民の研究・交流を支援し、新たな知識を生み出し、課題解決のための場として、多くの人に利用される図書館を目指します。

4-(4)

図書館に、社会情勢の変化に柔軟に対応するための「場」を開放し、利用する人と人をつなぎ、発展させるプラットフォーム（※㉔）としての役割を担います。



一関市図書館協議会



図書館サポーター排架作業



市民の作品展

(5) 図書館資料

【現状】

一関市立図書館資料収集方針及び一関市立図書館資料選定基準に基づき、各館の特徴を踏まえて資料の収集に努めました。

一関市立図書館資料除籍基準に基づき、資料の除籍を行いました。

【課題】

資料に対する要求に応えるだけでなく、市民の要求を高め、広げるための多種多様な資料の整備に努める必要があります。

除架（※⑩）、除籍、廃棄、更新といった、資料や情報のメンテナンスが進まない課題があります。

【新たな計画での対応】

1-(1)

一関市立図書館資料収集方針や一関市立図書館資料選定基準等をふまえ、選書会議を開催し、資料選定します。また、一関市図書館協議会や各図書館運営協議会等からの意見を資料の選定と収集に活かします。

適正な資料構成（※⑳）を維持し、合理的で効率的な利用を図るため、一関市立図書館資料除籍基準に基づき資料の除籍を進めます。

(6) 郷土資料（地域・行政資料）

【現状】

一関市立図書館資料選定基準に基づき、地域に関わりの深い分野の資料や特色ある資料を収集し、提供しました。

【課題】

引き続き、郷土資料（※⑩）を収集、提供していくことが求められるほか、資料の確実な整理と永久保存を想定した資料のデジタル化を進める必要があります。

【新たな計画での対応】

2-(1)

歴史と文化の継承につながる資料や郷土の魅力を発見できる資料を収集保存し、提供します。

郷土資料の保存と利用者の利便性向上を図るため、デジタル化を進めます。

(7) 運営

【現状】

一関市立図書館のサービス基準の調整、雑誌スポンサー事業（※⑮）の導入など、図書館サービスの向上を図りました。また、中央館で、事務、調整を行ったことで、効率性が確保され、各館の特色を生かした運営につながりました。

【課題】

高度で多様な市民の読書要求に応え、利用者が満足する図書館サービスを提供するためには、専門職員（※⑳）の充実が求められます。

限られた財源により、一層の効率的な運営を進めるため、先進事例などの情報収集や調査研究が求められます。

継続的な資料の整備充実と合わせ、市民などから、資料の寄贈を受ける仕組みも必要です。

【新たな計画での対応】

1-(2)

効率的な図書館運営を進めるため、先進事例などの情報収集や調査研究を行います。

Ⅲ—3 一関市の人口推計から見た課題

【課題】

人口減少と高齢社会により、従来の読書支援方法では対応が困難になっていくことが予測されます。

市民へ、より一層の図書館サービスの周知が必要です。

【新たな計画での対応】

4-(2)

おはなし会、映画会、講演会、研修会、講座、ワークショップ（※④⑧）、コンサート、企画展など、知的好奇心や探求心に働きかける魅力的な事業を開催します。

1-(7)

図書館サービスやイベント等のわかりやすい発信を行います。

Ⅲ—4 市民アンケートからみた課題

【課題】

図書館を利用していない人の割合は、全国平均よりやや低い傾向にあるものの、より利用を促す必要があります。

趣味や娯楽、自習スペースの確保や利用の工夫にも検討の必要があります。

図書館情報提供の工夫や、図書館サービスの周知と普及が不足しています。

資料等の増、イベントや講座の充実、調べものの相談サービスの充実、開館時間の延長、Webサービスの充実を求める要望が多いです。

【新たな計画での対応】

1-(3)

館内のレイアウトや動線を見直し、利用者の行動やニーズに応じた空間配置を工夫し、にぎやかな空間と静寂な空間を両立できるよう、柔軟な調整を図ります。

1-(5)、1-(7)

電子図書館（※⑦）サービスの利用促進に向け、広報の強化や使い方講座を継続的に実施します。

時代に即した多様なメディアを活用し、図書館サービスやイベント情報などを効果的に市民へ伝達するための広報体制を強化し、迅速かつ的確に情報を提供することで、図書館利用の促進を図ります。

3-(2)

レファレンスサービス（※④⑤）について周知するとともに、データベース化したレファレンス事例を公開し、利用を促進します。

4-(2)

おはなし会、映画会、講演会、研修会、講座、ワークショップ（※④⑧）、コンサート、企画展など、知的好奇心や探求心に働きかける魅力的な事業を開催します。

Ⅲ—5 前計画の評価

事業の評価として、A評価が5事業、B評価が8事業で、全ての事業で成果がみられました。

評価の基準表

	A	B	C	D
評価基準	事業の十分な成果がみられた	事業の成果がみられた	事業の成果があまりみられなかった	事業の成果がみられなかった

事業の方向性としては、継続が最も多く、10事業で、拡充すべき事業は、「全域サービス」、「図書館管理システムと資料搬送」の2事業、見直しの事業は、「施設」となりました。

事業の方向性

	拡充	継続	見直し	廃止
事業の方向性	内容を拡充して取り組む	継続して取り組む	内容の見直しを図っていく	廃止を検討する

図書館運営の基本方向の評価と方向性

	重点施策	目標	評価	事業の方向性
1 読書 環境の 充実	乳幼児・児童・青少年へのサービスと学校図書館支援	子どもと本を結び、健やかな成長と自立を支える図書館	A	継続
	成人へのサービス	生きがいを見いだす図書館	B	継続
	図書館利用が困難な方へのサービス	個性やニーズに合わせたサービスを柔軟に展開する図書館	A	継続
	全域サービス	地域を結び、だれでもどこでも使える図書館	B	拡充
	図書館資料の案内、貸出・予約	情報を発信し、人と資料をつなげる図書館	B	継続
	レファレンスサービス	暮らしに役立つ身近な図書館	A	継続
2 地域の 特色を 生かした 運営	施設	すべてのひとにわかりやすく使いやすい図書館	B	見直し
	図書館管理システムと資料搬送	8館の資源（人、資料）を有効に利用できる図書館	B	拡充
	情報通信環境	たくさんの新しい情報と出会い、活用できる図書館	B	継続
	市民との協働	だれもが参加し輝くことができる図書館	B	継続
	図書館資料	知の世界を広げ、学び続けることができる図書館	A	継続
	郷土資料（地域・行政資料）	歴史と文化を継承し、郷土の魅力を発見できる図書館	A	継続
	運営	よりよいサービスを目指し成長する図書館	B	継続

IV 前計画の基本目標と数値目標

IV—1 基本目標

「市民の心を豊かに満たし、市民とともに成長する図書館」を目標に掲げ、地域における情報拠点施設として、だれもが自由に資料を手に取り、知識や情報を得ることができる環境を整備し、図書館の魅力を高めるよう努めてきました。

また、市民の利用を積極的に推進し、人が集い、憩い、育ち、有機的につながり、コミュニティづくりの一翼を担い、ともに成長する図書館を目指してきました。

IV—2 数値目標

個人貸出登録者数は、目標を達成しましたが、市民1人当たり年間貸出点数と年間貸出点数は、未達成となりました。

コロナ禍以前は、順調な貸出点数でしたが、流行期の感染拡大防止対策のための一時休館や一部サービスの停止、生活様式の変化により、読書習慣にも変化があり、貸出点数の伸びは止まり、未達成となりました。

		達成度	令和6年度	中期目標 (令和2年度)	長期目標 (令和7年度)
1 市民1人当たり年間貸出点数 (個人)		未達成	6.4点/人	10点/人	12点/人
2 年間貸出点数	総数	未達成	673,531点	1,120,000点	1,250,000点
3 個人貸出 登録者数	登録者数	達成	65,525人	56,000人	57,300人
	人口に占める割合	達成	62.7%	50%	55%
			(R7.3末人口 104,494人)	(R3.3末人口 見込112,000人)	(R8.3末人口 見込104,181人)

V 基本理念

基本理念

いつでも、どこでも、だれでも、知り、学び、楽しめる図書館、

市民とともに成長する図書館

一関市教育振興基本計画の基本目標を「郷土を愛し 自ら学び 未来を拓く 一関のひとづくり」として位置づけています。この基本目標のもと、基本方向として、「ともに学び、まちと地域をつくるひとづくり(社会教育の推進)」が設定され、市民一人ひとりが、生きがいを持って、より豊かな人生を送るために、生涯にわたって学び続けることができる学習機会の創出や、学んだ成果を地域の活動につなげ、地域課題の解決と地域の教育力の向上を図ることのできる「ひとづくり」を目指しています。

この目標を達成するため、図書館の役割を基本理念として定めます。

VI 一関市立図書館運営方針

一関市立図書館は、各館が地域の特色を活かした独自の個性を持ち、特色ある資料の収集と生涯学習を支援する多様なサービスを展開しています。

本計画の基本理念である「いつでも、どこでも、だれでも、知り、学び、楽しめる図書館、市民とともに成長する図書館」の実現を目指し、今後も市民とともに歩み続けます。

この基本理念を具体化するために、4つの行動計画を定め、さらに市民サービスの充実を図るために19のサービス計画を策定します。

また、取り組む項目を前期サービス計画、後期サービス計画とに分け、更に年度毎に具体的な取組を定めて実行することにより、この計画を達成していきます。

この計画実現のため、予算化に向け、前向きに検討を進めます。

VII 行動計画・目標指標

区分	一関市立図書館が目指す数値目標	
	指標	目標 (R12年度)
基本理念	来館者数 (総数)	400,000人
	市民1人当たり年間来館回数	4.34回/人
	現状 (R6年度)	391,363人
	現状 (R6年度)	3.73回/人

いつでも、どこでも、だれでも、知り、学び、楽しむ、成長する図書館、市民とともに成長する図書館

区分	計画を達成するための取組	施策体系	
		現状 (R6年度)	目標 (R12年度)
1 情報拠点としての基盤と運営体制を整え、地域の活動を支援する図書館	資料・施設・職員体制など、図書館を構成する各要素を整備し、市民とともに成長している持続可能な図書館を整備します。	(1) 図書館資料 (2) 運営 (3) 施設 (4) 全域サービス (5) デジタル推進による利用者サービス、読書環境の充実 (6) 図書館管理システムと資料搬送 (7) 情報通信環境と図書館情報発信	市民1人当たり年間貸出点数 7.6点/人
2 一関の文化を育み、継承する図書館	地域の歴史や文化などを後世に伝えるため、郷土資料や行政資料を計画的に収集・保存・提供するとともに、デジタル化や情報発信を進め、市民の地域理解と活用を促進します。	(1) 郷土資料 (地域・行政資料) (2) 地域情報拠点	郷土資料蔵書点数 64,385点
3 すべての市民に情報を届ける図書館	資料の貸出や情報提供を充実させ、幅広い世代に対応したサービスと障がい者や利用困難な方への配慮を推進するとともに、学校図書館と連携し、読書や学習支援を行い、すべての市民の学びを多面的に支えます。	(1) 図書館資料の提供 (2) 図書館資料の案内・レファレンスサービス (3) 乳幼児・児童・青少年へのサービス (4) 成人へのサービス (5) 図書館利用が困難な方へのサービス (6) 学校図書館支援	企画展示の件数 400件
4 学びの成果を挑戦に つなげる図書館	一関市総合計画前期基本計画では、「ひとりひとりが輝く挑戦しつづけるまち いちのせき」を将来像に掲げています。市民が生涯にわたって生き生きと挑戦し続けられるよう学んだ経験や知識を活かせる支援をします。 地域課題が解決される場所、共通の趣味を持つ人々が集まる場所として地域の人々に愛される図書館をつくります。	(1) 市民協働による読書活動の推進 (2) 各種講座の開催 (3) 課題解決支援 (4) 地域コミュニケーションの場	市民、利用者による展示会・講座の開催回数 22件

現状の各数値の資料：

(基本理念) 令和6年度利用状況報告

(行動計画) 1～3：令和7年度図書館・公民館図書室等実態調査 4：一関市立図書館独自調査

Ⅷ サービス計画

Ⅷ—1 情報拠点としての基盤と運営体制を整え、地域の活動を支援する図書館

資料・施設・職員体制など、図書館を構成する各要素を整え、市民とともに成長していける持続可能な図書館を目指します。

(1) 図書館資料

～知の世界を広げ、学び続けることができる図書館

先人の知恵や歴史的事実、新しい発見や技術の進歩など、市民の知的欲求を満たし、生活に潤いを与え、自己実現に役立つ資料を収集し、情報拠点としての役割を担います。

また、市民の多様な資料要求に応えるため、一関市立図書館資料収集方針に従い、資料を幅広く豊富に収集します。

- ① 一関市立図書館資料収集方針や一関市立図書館資料選定基準等をふまえ、選書会議を開催し、資料選定します。また、一関市図書館協議会や各図書館運営協議会等からの意見を資料の選定と収集に活かします。
- ② 一般、青少年、児童、外国語図書、参考図書などの基本図書（※⑦）を各分野にわたり幅広く収集します。
- ③ 社会的動向や市民のニーズに配慮し、新聞や雑誌など新鮮な情報を収集します。
- ④ 読書をより身近なものとするため、いつでもどこでも利用可能な電子図書館（※⑳）サービスを提供し、利用者の利便性の向上と読書推進に努めます。
- ⑤ 音楽、映画などの視聴覚資料（音声資料、映像資料、マルチメディアDAISY（※㉑））を収集します。
- ⑥ 利用者の調査研究の利便性の向上を図るため、オンラインデータベースの充実にも努めるとともに、新聞のデジタル版などの電子的（デジタル）資料を収集します。
- ⑦ 市民の幅広いニーズに応えるため、全館で資料の分担収集、保存を行います。
- ⑧ 適正な資料構成（※㉒）を維持し、合理的で効率的な利用を図るため、一関市立図書館資料除籍基準に基づき資料の除籍を進めます。
- ⑨ 新聞、雑誌の保存場所と保存年数について調整します。

(2) 運営

～よりよいサービスを目指し成長する図書館

社会情勢の変化や市民の図書館に対する多様なニーズに対応できるよう、常に新しい施策や先進事例などの情報を収集、分析し、効果的な取組を運営に取り入れます。

また、専門職員（※㉓）による充実した図書館サービスの提供とさらなるサービス向上に努めます。

- ① 市民センター（※㉒）や社会教育施設の博物館、民俗資料館などの関係機関との連携を強化し、資料提供や収集を行うとともに、展示や講座などの事業を開催します。
- ② アンケートや満足度調査により、市民ニーズの把握に努め、利用しやすい開館時間帯や、サービスの評価・分析を行いながら図書館運営を行います。
- ③ 当市への転入時や乳幼児健診、図書館施設見学などの様々な機会を捉え、登録者数の拡大に取り組みます。
- ④ 市民活動団体との連携を強化し、活動の成果を発表する機会を提供するなどの取り組みにより新規来館者数の増加につなげます。
- ⑤ 図書館サービスの向上及び地域経済の活性化を図るため、雑誌スポンサー制度（※㉑）の拡充に努めます。
- ⑥ 市民の多様な読書要求に応える充実した図書館サービスを提供するため、専門職員を配置します。また、職員の資質を向上させるため、研修の機会を確保します。
- ⑦ 各館が、それぞれの地域に身近な図書館として、市民の活動と地域の課題解決に向けた支援につながるよう、それぞれがその独自性を発揮した運営を行い、各地域において特色ある図書館サービスを提供します。
- ⑧ 効率的な図書館運営を進めるため、先進事例などの情報収集や調査研究を行います。
- ⑨ 中央館は、市立図書館全体の事務や調整を効率的に進めます。地域館は、市民の日常に密着したサービスを積極的に提供します。
- ⑩ 災害対応や感染症対策を考慮した図書館運営のあり方について、情報収集と調査、検討を行い、適切なサービスの提供に努めます。

- ① 図書館運営及びサービスの提供に当たっては、持続可能な開発目標（SDGs）（※③）の理念を踏まえた取組を行います。



(3) 施設

～すべてのひとにわかりやすく使いやすい図書館

読書に適した館内環境を整え、老朽化、狭隘化している図書館の改修を進めるとともに、読書バリアフリー（※⑳）に対応した施設の整備に努めます。

- ① 館内のレイアウトや動線を見直し、利用者の行動やニーズに応じた空間配置を工夫し、にぎやかな空間と静寂な空間を両立できるように、柔軟な調整を図ります。
- ② 分類や排架を工夫し、市民が利用しやすい資料の配置を行います。
- ③ 誰でも安全に利用できる設備の配置や排架に配慮するなど、施設環境の向上に努めます。
- ④ 郷土資料（※⑩）や絶版で入手が困難な資料などを必要に応じて地域館から中央館に移管し、一関図書館の資料保存機能を強化します。
- ⑤ 施設改修に併せて、出入口やトイレのバリアフリー化、子ども用トイレの検討、館内サインの見直しなど、多様な利用者が安心して安全に使える施設づくりに取り組むとともに、視認性やわかりやすさにも配慮します。
- ⑥ 建築後 50 年以上経過する千厩図書館、40 年以上経過する大東図書館や、施設の狭隘化が課題となっている藤沢図書館をはじめ、各館の施設に関する課題については、公共施設等総合管理計画などにより、優先順位を明確にしながら、必要な修繕・改修を段階的かつ着実に進め、長期的に使用できる環境を保ちます。
- ⑦ 市の施設整備・改修等に関する計画の年度ごとの見直しや市民の意見を取り入れながら、持続可能で柔軟な整備・運用を進めるとともに、将来を見据えた施設管理体制を整えます。

(4) 全域サービス

～地域を結び、だれでもどこでも使える図書館

移動図書館車、館外サービス、学校図書館との連携などにより、地域への細やかなサービスを提供し、誰もがどこでも図書館資料を利用できるサービスを目指します。

- ① 移動図書館車や公用車による館外サービスの効果的、効率的な運行を行います。
- ② 学校や市民センター（※⑩）、民間施設と連携し、配本所（※⑫）の設置や団体貸出などを行います。
- ③ 学校や幼保こども園、市民センター、民間施設、各種団体と連携し、出前おはなし会の開催などを行います。
- ④ 電子図書館（※⑭）サービスにより、市民のだれもが、どこでも利用可能な電子資料（※⑮）を提供し、市民の読書環境を拡充します。

(5) デジタル推進による利用者サービス、読書環境の充実
～高度な情報環境に対応し快適な読書体験を提供する図書館

デジタル技術を図書館サービスに積極的に取り入れ、快適な読書体験につなげます。

- ① 電子図書館（※㉗）サービスの利用促進に向け、広報の強化や使い方講座を継続的に実施します。
- ② 利用者が、自らインターネット上で利用可能な蔵書検索、予約、利用状況確認など多機能の統合型図書館アプリや、オンラインでの相談、レファレンスサービス（※㉘）の導入などについて調査・検討を進めます。
- ③ オーディオブック（※㉙）など、デジタル技術を活かした新たな読書支援に取り組みます。
- ④ 地域資料や図書館刊行物のデジタル化を計画的に進め、地域の知的資源を広く共有できる体制を整えます。
- ⑤ 蓄積された利用データ等を活用しAIによるレコメンド機能（※㉚）などの導入可能性について調査します。
- ⑥ マイナンバーカードを用いて図書館サービスを利用できる仕組みの導入可能性について調査します。
- ⑦ 導入済みのデジタル設備の運用改善により、利便性の向上と職員業務の効率化を図ります。

(6) 図書館管理システムと資料搬送
～8館の資源（人、資料）を有効に利用できる図書館

8館の資源（人、資料）を有効に利用できる運営を行います。

図書館管理システムと資料搬送システムの円滑な運用を図るとともに、8館の資料と専門職員（※㉛）が有する知識を市民に提供します。

- ① 図書館管理システムを定期的に見直し、必要な機能の更新・再構築を行います。
- ② 8館での資料の搬送を継続し、資料の効率的な共有を図ることで、利用者がより多くの資料を利用できるようにします。
- ③ 資料の貸出や予約を円滑に行うため、MARC（※㉜）と目録（※㉝）の整備、改善を進め、OPAC（※㉞）やホームページで公開し、利用者の利便性の向上に努めます。

- ④ 公共図書館システムと学校図書館システムの連携を継続し、子どもたちが読書に親しみやすい環境づくりを推進します。

(7) 情報通信環境と図書館情報発信

～たくさんの新しい情報と出会い、活用できる図書館

多様化する生活様式に対応した読書環境を整備し、図書館情報をわかりやすく発信します。

- ① 利用者が自ら資料や情報を簡便に検索できるよう、全館に設置した公衆無線LANの利用促進を図るとともに、通信環境の安定化・高速化に努め、快適な情報アクセス環境を提供します。
- ② 時代に即した多様なメディアを活用し、図書館サービスやイベント情報などを効果的に市民へ伝達するための広報体制を強化し、迅速かつ的確に情報を提供することで、図書館利用の促進を図ります。
- ③ 子ども向けのホームページを新たに作成し、子どもたちが自分で本などを探したり、図書館のイベント情報を得られる環境を整えます。

Ⅷ—2 一関の文化を育み、継承する図書館

地域の歴史や文化などを後世に伝えるため、郷土資料（※⑩）や行政資料を計画的に収集・保存・提供するとともに、デジタル化や情報発信を進め、市民の地域理解と活用を促進します。

(1) 郷土資料（地域・行政資料）

～郷土の過去、現在を未来へつなげる図書館

歴史と文化の継承につながる資料や郷土の魅力を発見できる資料を収集保存し、提供します。

- ① 一関市立図書館資料収集方針及び一関市立図書館資料選定基準に基づき、各図書館の地域特性や運営内容の特色を活かした郷土資料を収集します。
- ② 当市が抱えている課題の把握に努め、関連する行政資料、情報を収集します。
- ③ 収集が困難な地域・行政資料については、関係機関との連携強化を図りながら、研究機関や企業、市民への情報提供や寄贈の呼びかけ、複製などにより収集に努めます。
- ④ 郷土資料（※⑩）の利便性を高めるため、MARC（※⑳）の整備や排架の検討を行います。

- ⑤ 郷土資料の保存と利用者の利便性向上を図るため、デジタル化を進めるとともに、オンラインでの閲覧に向けて検討を行います。
- ⑥ 児童や生徒が郷土への関心や理解を深め、地域を身近に感じられる地域資料や、防災・減災教育に役立つ資料の充実に努めます。
- ⑦ 企画展や各種広報媒体などを通じて郷土資料を広く周知し、市民による活用を促進します。

(2) 地域情報拠点

～地域の情報を発信する図書館

行政情報や地域情報の提供を推進します。

- ① 市が作成した地域・行政資料のデジタルデータの調査・収集について検討します。
- ② 各館が地域の情報拠点として、地域情報の発信を積極的に行います。

Ⅷ—3 すべての市民に情報を届ける図書館

資料の貸出や情報提供を充実させ、幅広い世代に対応したサービスと障がい者や利用困難な方への配慮を推進するとともに、学校図書館と連携し、読書や学習支援を行い、すべての市民の学びを多面的に支えます。

(1) 図書館資料の提供

～情報を発信し、人と資料をつなげる図書館

全館の職員が連携し、その経験と専門的知識を活かすことで、貸出・予約をはじめとした図書館の基本的サービスの充実に努めます。

- ① 資料の貸出・予約サービスの向上のため、図書館システムの改善や運営体制の整備などについて検討し、サービスの改善に努めます。
- ② 常に資料の整理を行い、職員の情報探索技術及び知識を高め、時事情報を収集することにより、利用者へ、資料を迅速かつ適切に提供します。
- ③ 一関市立図書館と他自治体の図書館、岩手県立図書館、国立国会図書館などを結ぶ相互協力ネットワークや関係機関との連携を強化し、資料や情報を提供します。
- ④ オンラインデータベース（※⑥）などの多様な情報取得手段についての認知度を高めるため、積極的な広報を行います。

- ⑤ 市民に迅速に情報を提供するため、OPAC（※⑤）やホームページの一層の充実とSNS（※②）の活用に努めます。

(2) 図書館資料の案内・レファレンスサービス ～暮らしに役立つ身近な図書館

資料や情報の提供を通して、市民が抱えるさまざまな課題の解決や自己実現のための支援を行います。また、情報発信により図書館を利用したことのない市民の図書館利用を促します。

- ① 課題解決に役立つ参考図書やオンラインデータベース（※⑥）、電子資料（※⑯）などを充実します。
- ② 多種多様な情報源の中から、よりの確な情報源に利用者をつなぐため、職員の情報探索技術の向上に努めます。
- ③ レファレンスサービス（※④）について周知するとともに、データベース化したレファレンス事例を公開し、利用を促進します。
- ④ 専門的あるいは特殊な課題については、他の図書館や専門機関などを紹介するレフェラルサービス（※④）を行い、多角的な情報収集を支援します。
- ⑤ 利用者が自ら行う情報検索を容易にするため、パスファインダー（※③）やリンク集などを整備し、公開します。
- ⑥ AI関連の情報を収集し、情報活用の手段や方法を紹介することで情報リテラシー（※⑰）の向上を支援します。
- ⑦ 図書館の利用促進に向けて、資料案内（※⑱）を積極的に行います。
- ⑧ 企画展やイベントを実施し、より多くの資料を市民に紹介します。

(3) 乳幼児・児童・青少年へのサービス ～子どもと本を結び、健やかな成長と自立を支える図書館

子どもと本との出会いを支えるための専門職員（※⑱）を配置し、さまざまな機会を捉えて子どもの成長や興味、関心に合わせた資料を提供します。また、子どもの健やかな成長と自立を支えるための居場所としての役割も担います。

① ブックリストの作成と配布

乳幼児から児童・青少年のためのブックリストを作成・配布し、良書との出会いを支援します。また、ブックリストは定期的に見直しを行います。

② 企画展の開催

テーマや時事に関する企画展を開催し、各年代に向けた多様なジャンルの資料を紹介・提供します。

③ 資料の収集と提供

長く読み継がれている評価の高い作品を中心に、多様な価値観や若い世代の感性を考慮した資料や情報を収集し、個人の興味や読書力に合った資料を提供します。

[乳幼児へのサービス]

① 乳幼児向けおはなし会などを行い、乳幼児期において重要な「心の発達」と「読書によることばの獲得」を保護者に積極的に働きかけます。

② 保健担当部署と連携し、乳幼児健診の機会を活用して読み聞かせや図書館サービスの紹介を行います。また、ブックスタート事業の実施について検討します。

[児童へのサービス]

① 子どもが本と出会い、読書を楽しむきっかけが得られるような魅力的な事業を実施します。

② 一関市教育振興基本計画の重点事項である「グローバル人材育成」(※⑫)を推進するため、関連する資料を収集するとともに企画展を開催します。

③ 学校等と連携し、調べ学習を支援します。また、情報リテラシー(※⑰)教育や図書館利用教育を行います。

[青少年へのサービス]

① 中学生、高校生、市内の各種専門学校や短期大学などの学生のニーズを把握し、学習、進路選択や就職に役立つ資料や情報を提供します。

② 学習や生活面での課題を解決するために、情報を共有し合う場や大人との交流の機会を提供することを目的とした、青少年がコミュニケーションを図る参加型の事業を実施します。

③ 学校等と連携し、探求学習や調べ学習を支援します。また、情報リテラシー教育や図書館利用教育を行います。

④ 電子図書館(※⑳)の電子資料(※㉑)など、若い世代に身近な媒体による資料や情報の提供に努めます。

(4) 成人へのサービス

～生きがいを見い出す図書館

勤労世代からシニア世代まで、暮らしや趣味、仕事や地域の課題解決に役立つ資料や情報を提供し、学びを支援します。

- ① 日常生活に身近な情報や暮らしに役立つ情報、時事情報などをはじめとする市民のニーズに即した資料を収集、提供します。
- ② 市民の興味関心や知識の幅が広がるよう、季節や時事、社会情勢に合わせた企画展やイベントを行い、より多くの資料や情報を紹介します。
- ③ 一関市の産業（地場産業）に関する資料やキャリアデザイン（※⑨）、キャリアアップ（※⑧）、資格取得に役立つ資料など、仕事や人生設計に役立つ資料や情報を収集、提供します。
- ④ 地域の歴史や文化に関する資料をはじめ、地域づくりの支援につながる資料を収集、提供します。
- ⑤ 市の施策などに役立つ資料や情報を収集、提供します。
- ⑥ 電子資料（※⑳）やオンラインデータベース（※⑥）の充実により、幅広い世代により利便性の高い図書館サービスを提供します。

(5) 図書館利用が困難な方へのサービス

～個性やニーズに合わせたサービスを柔軟に展開する図書館

物理的な障がいやコミュニケーションの障がいなどにより、図書館利用が困難な方へ、一人ひとりの個性やニーズに合わせたサービスや、読書バリアフリー（※㉑）に対応したサービスを柔軟に展開していきます。

また、フロアワーク（※㉒）に努めるなど、気軽に声をかけやすい図書館の雰囲気づくりに努めます。

- ① 図書館サービスがすべての市民に届くよう、特にも社会的なつながりを深めることが難しい方が抵抗なく読書サービスへアクセスできるような環境を整え、図書館利用を促します。
- ② 大活字本（※㉓）、録音図書（※㉔）、リライト資料（※㉕）、マルチメディアDAISY（※㉖）などを引き続き、収集、提供します。また、電子図書館（※㉗）により、一人ひとりの個性やニーズに合わせた利用が可能な電子資料（※㉘）を提供します。

- ③ 誰もが読書や図書館に親しめる環境を目指し、必要な道具の整備を行い、利用しやすい機器やシステムを導入するとともに、利用者の操作をサポートします。また、対面朗読や録音図書などが利用できる環境を整備します。
- ④ 障がいのある子どもの読書を支援するため、布の絵本、布の道具、録音図書（DAISY図書を含む）、点字資料（※⑫）、大活字本等資料の充実を図り、利用を促進します。
- ⑤ 高齢者が親しみやすい資料を収集するとともに、高齢者向けの企画展や講座・イベントの開催を通して、ニーズに合わせた資料や情報を提供します。
- ⑥ 高齢者施設、福祉施設、医療施設などと連携し、おはなし会や読書会（※⑬）等を開催します。
- ⑦ 病気や障がいなど何らかの理由で図書館に来ることができない方への郵送貸出について、サービス内容を周知し、利用を促進します。
- ⑧ 図書館や移動図書館車まで来ることができない方が、図書館へ来館できるサービスについて、引き続き検討します。
- ⑨ 「障害者差別解消法」の趣旨を踏まえ、図書館の利用における障害について、必要かつ適切な変更・調整・代替方法の検討などを利用者で行い、合理的配慮の提供を行います。
- ⑩ 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第49号）」の趣旨を踏まえ、点字資料や拡大資料などの障がい者向け資料の充実を図ります。また、障がいのある方のニーズを把握し、利用しやすい環境の整備やサービスの実施に努めます。
- ⑪ 外国語の図書や雑誌、新聞のほか、日本語や日本文化を学ぶための資料や、多文化理解や国際理解に役立つ資料を収集、提供します。
また、関係団体と連携し、図書館サービスの内容や利用方法について説明する機会を設けるほか、案内ツールの充実を図り、多文化サービス（※⑭）の実施に努めます。

(6) 学校図書館支援

～子どもと本を結び、健やかな成長と自立を支える図書館

読書普及員（※⑮）や学校図書館担当教諭と連携し、必要な資料の提供や読書普及活動を行うことで、学校図書館を支援します。

- ① 学校への移動図書館車での巡回、学級文庫への団体貸出、学校でのおはなし会やブックトーク（※⑯）、ストーリーテリング（※⑰）などを行い、学校における読書活

動の推進及び不読率の改善につなげていきます。

- ② 学校図書館を支援するため、教科関連図書などの団体貸出を行います。
- ③ 学校図書館の読書環境を改善するため、読書普及員や学校図書館担当教諭と連携し、選書や読書指導、学校図書館運営に関する情報の提供や意見交換を行います。
- ④ 図書館職員と読書普及員、学校図書館担当教諭を対象とした合同研修会などを開催し、知識や技術の向上と連携強化に努めます。

Ⅷ—4 学びの成果を挑戦につなげる図書館

一関市総合基本計画では、「ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち いちのせき」を将来像に掲げています。市民が生涯にわたって、生き生きと挑戦し続けられるよう、学んだ経験や知識を活かせる支援をします。

地域課題が解決される場所、共通の趣味を持つ人々が集い、交流する図書館をつくります。

(1) 市民協働による読書活動の推進 ～だれもが参加し輝くことができる図書館

図書館の利用や読書活動の推進を通して、誰もが地域社会に参加し、活躍できる機会を提供します。

- ① 「人と資料、情報が出会う広場」、「人と人が出会う広場」として、市民に親しまれ、市民が気軽に参加、活動、交流できる環境を整備します。
- ② 知る、調べる、学ぶ、考える、くつろぐ、楽しむことができる集会行事活動を推進します。
- ③ 一関市図書館協議会や各図書館運営協議会における意見等を図書館運営に反映し、地域に密着したサービスを展開します。
- ④ 地域住民やボランティア、友の会、市民活動団体など、市民や団体と連携し、展示などの事業を行います。

(2) 各種講座の開講

～学びを深め、活動を支援する図書館

生涯学習を充実させ、ボランティア活動や地域活動、読書推進につながる活動を支援します。

- ① おはなし会、映画会、講演会、研修会、講座、ワークショップ（※㉘）、コンサート、企画展など、知的好奇心や探求心に働きかける魅力的な事業を開催します。
- ② 地域で行われる講座、研修会、セミナーなどで関連する資料の展示や貸出、提供を行うことで、地域を支援します。
- ③ 電子図書館（※㉗）講座や調べもの講座など、どの年代の方でも気軽に図書館を利用・活用できるよう出前講座を企画、実施します。
- ④ 専門的な知識や技能を有する図書館サポーターを積極的に受け入れるとともに、図書館サポーターの活動紹介や若年層等に向けた養成講座の開催などにより、長期的な活動を支援します。

(3) 課題解決支援

～市民の研究や交流から課題を解決する図書館

個人や地域の抱える課題の解決に向けて、図書館資源を活用して支援します。

- ① 市民の研究・交流を支援し、新たな知識を生み出し、課題解決のための場として、多くの人に利用される図書館を目指します。
- ② 社会情勢や市民の課題に応じて、ブックリストの作成やコーナーとして常設展示するなど、課題解決に役立つ資料を提供します。
- ③ 市の行政課題に対応した企画展、先進事例の紹介等の情報を提供します。

(4) 地域コミュニティの場

～知識と感性が響き合う、集いや交流の場としての図書館

地域の人々が集い、つながり、交流する図書館をつくります。

- ① 全ての人の日常生活を豊かにするため、気軽に訪れ、資料等に親しむことのできる場を提供します。
- ② 図書館に、社会情勢の変化に柔軟に対応するための「場」を開放し、利用する人と人をつなぎ、発展させるプラットフォーム（※㉙）としての役割を担います。

- ③ 交流や活動を楽しむ「にぎやかな空間」と、読書や学習に集中できる「静寂な空間」を共存させ、市民の多様な利用目的に応える環境の提供を目指します。
- ④ 読書で得た知識や感性・知恵を、人から人へと受け継ぐ「人の交流」が絶えない持続可能なプラットフォームづくりを担います。
- ⑤ 地域に根差した特色ある図書館づくりを行い、知・文化の拠点として、また地域のコミュニティ形成に資する場として、機能することを目指します。
- ⑥ 市民の学びを支援するとともに、学びの成果を発表する機会や場所を提供します。

IX 前期サービス計画(令和8年度—令和12年度)

行動計画	サービス計画	具体的施策	
1 情報拠点としての基盤と運営体制を整え、地域の活動を支援する図書館	(1) 図書館資料	① 収集方針等に基づく収集	
		② 基本図書の幅広い収集	
		③ 新聞や雑誌等の収集	
		④ 電子図書館サービスの提供	
		⑤ 視聴覚資料(音声、映像、DAISY)の収集	
		⑥ オンラインデータベースの充実とデジタル資料の収集	
		⑦ 資料の分担収集、保存	
		⑧ 適正な資料構成の維持	
	(2) 運営	① 関係機関との連携強化	
		③ 利用登録者数の拡大	
		⑤ 雑誌スポンサー制度の拡充	
		⑥ 専門職員配置、研修	
		⑦ 独自性を発揮した運営	
		⑨ 中央館、地域館の役割	
		⑩ 災害、感染症対策を考慮したサービスの提供	
		⑪ SDGsを踏まえた取組	
		(3) 施設	① レイアウトや動線の見直しと空間配置の工夫
			② 分類や排架の工夫
			③ 施設環境の向上
	④ 一関図書館の保存機能強化		
	⑤ 安心安全な施設づくり		
⑥ 老朽化や狭隘化改修			
⑦ 施設管理体制の整備			
(4) 全域サービス	① 効果的、効率的な運行		
	③ 館外おはなし会の実施		
	④ 電子図書館サービスの提供		
	(5) デジタル推進による利用者サービス、読書環境の充実	① 広報の強化や使い方講座の実施	
② 統合型図書館アプリの検討			
③ デジタル技術読書支援の取組			
④ 地域資料や図書館刊行物のデジタル化			
⑤ AIによるレコメンド機能の導入調査			
⑦ 導入済みデジタル設備の運用改善			
(6) 図書館管理システムと資料搬送		① システムの定期的な見直し	
	② 8館の資料の効率的な共有		
	③ MARCと目録の整備、改善		
	④ 公立・学校図書館システムの継続した連携		
(7) 情報通信環境と図書館情報発信	① 快適な情報アクセス環境の提供		
	② 広報体制の強化		
	③ 子ども向けホームページの作成		
2 一関の文化を育み、継承する図書館	(1) 郷土資料(地域・行政資料)	① 収集方針等に基づく収集	
		② 本市の課題に関連する資料の収集	
		③ 関係機関との連携による資料の収集	
		④ MARCの整備、配架の検討	
		⑤ 郷土資料のデジタル化の推進	
		⑥ 児童生徒の教育に役立つ資料の充実	
		⑦ 企画展や広報による周知、活用促進	
	(2) 地域情報拠点	② 地域情報の積極的な発信	

行動計画	サービス計画	具体的施策
3 すべての市民に情報を届ける図書館	(1) 図書館資料の提供	① 図書館システムの改善等
		② 資料整理、情報探索技術の向上等
		③ 他自治体等図書館等との連携強化
		④ 情報取得手段の認知度の向上
		⑤ OPACやホームページの充実、SNSの活用
	(2) 図書館資料の案内・レファレンスサービス	① 参考図書や電子資料などの充実
		② 情報探索技術の向上
		④ レフェラルサービスの実施
		⑤ バスファインダーやリンク集の整備公開
		⑥ 情報リテラシーの向上支援
		⑦ 資料案内の積極的な実施
		⑧ 企画展、イベントの実施
		(3) 乳幼児・児童・青少年へのサービス
	② 企画展の開催	
	③ 資料の収集と提供	
	乳① 乳幼児向けおはなし会の実施	
	乳② 健診時の読み聞かせ、ブックスタート事業の検討	
	児① 本と出会い、読書を楽しむ事業の実施	
	児③ 図書館や資料利用方法の研究、計画的指導	
	青① ニーズ把握、資料・情報提供	
	(4) 成人へのサービス	青③ 学校と連携した探求学習等の支援
		青④ 電子資料等の提供等
		① ニーズに即した資料収集、情報提供
		② 季節や時事、社会情勢の企画展、イベントの実施
③ 地場産業や仕事に役立つ資料の収集提供		
⑤ 市の施策などに役立つ資料の収集提供		
(5) 図書館利用が困難な方へのサービス	⑥ 電子図書館資料等の充実	
	① アクセス環境の整備	
	② 大活字本等の収集、提供	
	③ 必要な道具、機器、環境の整備	
	④ 障害のある子どもへの読書の支援	
	⑤ 高齢者の親しみやすい資料収集、企画展等の実施	
	⑥ 高齢者施設等と連携したおはなし会等の実施	
	⑦ 郵送貸出の利用促進	
	⑨ 合理的配慮の提供	
	⑩ 視覚障がい者等向け資料の充実	
	⑪ 外国語や多文化・国際理解に役立つ資料の収集、多文化サービスの実施	
(6) 学校図書館支援	① BM巡回、団体貸出、学校でのおはなし会等の実施	
	② 教科関連図書などの団体貸出の実施	
	③ 読書普及員、学校図書館担当教諭との連携	
4 学びの成果を挑戦につなげる図書館	(1) 市民協働による読書活動の推進	① 市民が気軽に参加、活動、交流する場の整備
		② 集会行事活動の推進
		③ 協議会の意見等を反映した、地域密着サービスの展開
	(2) 各種講座の開講	① おはなし会、映画会等魅力的な事業の実施
		② 地域の講座、研修会等関連の資料展示貸出
		③ 電子図書館講座等出前講座の企画、実施
		④ 図書館サポーターの受入、養成講座等の実施
	(3) 課題解決支援	① 市民の研究、交流支援、課題解決の場の提供
		③ 市の行政課題に対応した企画展、先進事例の紹介等
	(4) 地域コミュニティの場	① 気軽に訪れ、資料に親しむ場の提供
		⑤ 地域に根差した特色ある図書館づくり
		⑥ 学びの成果の発表の場の提供

○一関市立図書館に関する市民アンケート

市民の皆様から日頃の図書館の利用状況やこれからの市立図書館に期待される事項についてお聞かせいただき、『一関市図書館振興計画』の内容に反映するためのアンケート調査を実施いたしました。

○対象者

市内に住民登録のある18歳以上80歳未満の方1,000名
性別(各50%)、年齢、各地域の人口割合を勘案した無作為抽出による層別抽出法による抽出

○回答の方法

調査票の郵送配布
郵送およびインターネットのどちらかによる回答

○調査時期

令和6年9月20日～10月15日

○回答者数

334人

○回収率

33.4%

○設問数

12問

○調査項目

問1 お住まいの地域を教えてください。

問2 あなたの性別を教えてください。

問3 あなたの年代を教えてください。

問4 去年公共図書館をどのくらい利用しましたか(一関市外を含む)。

問5 (問4で②～④を選択した方へ)どこの図書館を利用しましたか。

問6 (問4で②～④を選択した方へ)図書館へは、どのような手段で来ますか。

問7 (問4で②～④を選択した方へ)図書館に来る目的は何ですか。

問8 (問4で②～④を選択した方へ)図書館に関する情報はどこから手に入れていますか。

問9 (問4で①を選択した方へ)図書館を利用しない理由・利用しなくなった理由を教えてください。

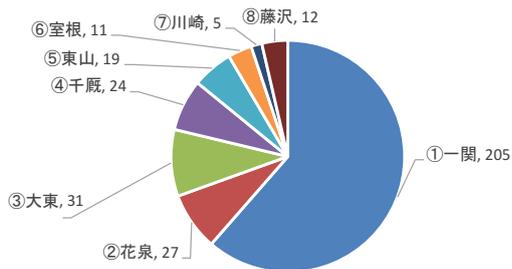
問10 図書館や図書館サービスについて知っているものはありますか。

問11 これからの図書館に望むことはありますか。

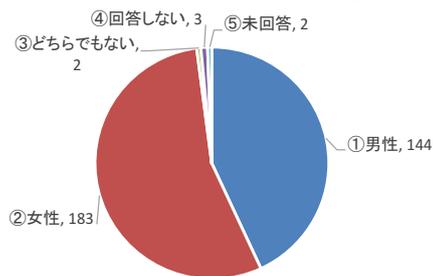
問12 図書館をもっと魅力的な施設とするために、アイデアやご意見があればご自由にご記入ください。

(調査結果)

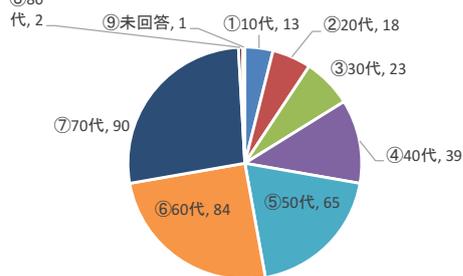
Q1.お住まいの地域を教えてください。



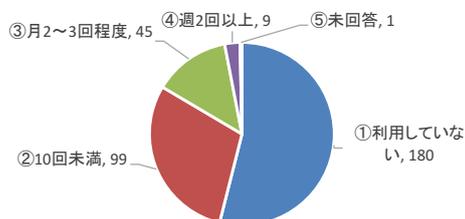
Q2.あなたの性別を教えてください。



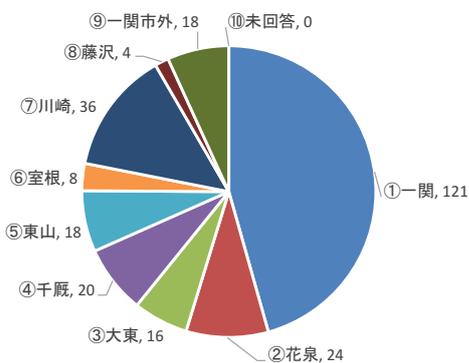
Q3.あなたの年代を教えてください。



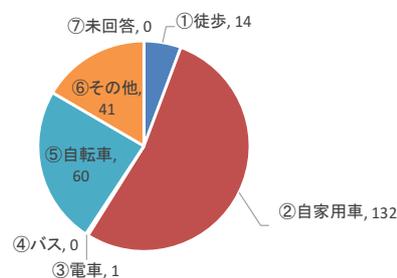
Q4.去年公共図書館をどのくらい利用しましたか(一関市外を含む)。近いものを1つ選択してください。※この間で①を選択した方→次にQ9へお進みください。この間で②~④を選択した方→Q5~Q8をご回答ください。



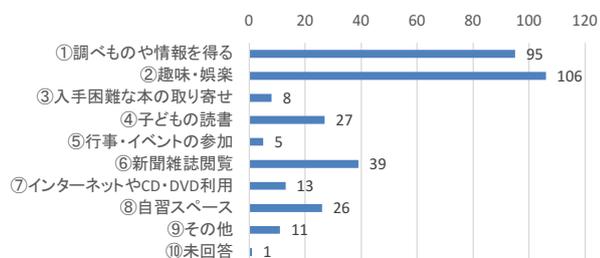
Q5.(Q4で②~④を選択した方へ)どこの図書館を利用しましたか。あてはまるもの全てを選択してください。



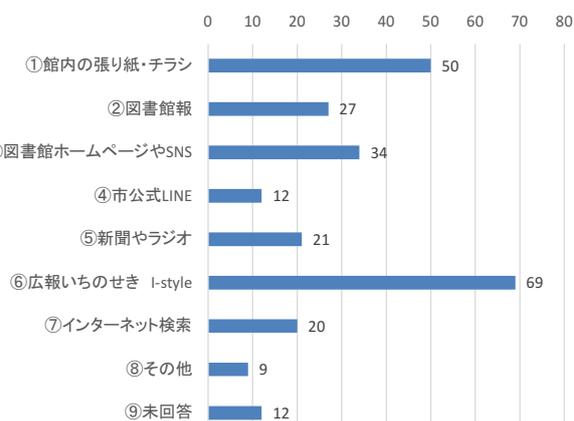
Q6.(Q4で②~④を選択した方へ)図書館へは、どのような手段で来ますか。一番よく使う手段を1つ選択してください。



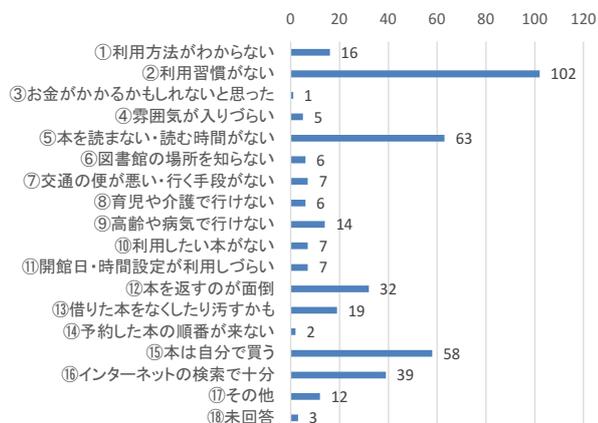
Q7.(Q4で②~④を選択した方へ)図書館に来る目的は何ですか。あてはまるもの全てを選択してください。



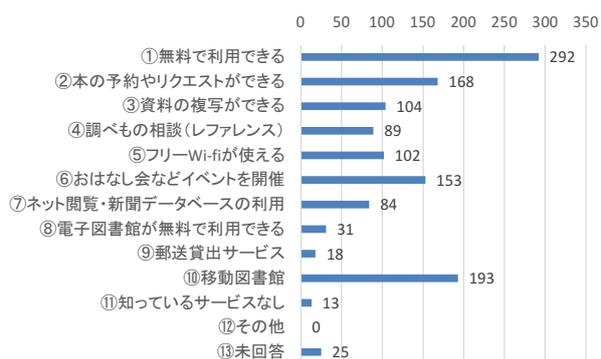
Q8.(Q4で②~④を選択した方へ)図書館に関する情報はどこから手に入れていますか。あてはまるもの全てを選択してください。回答後、Q10へお進みください。



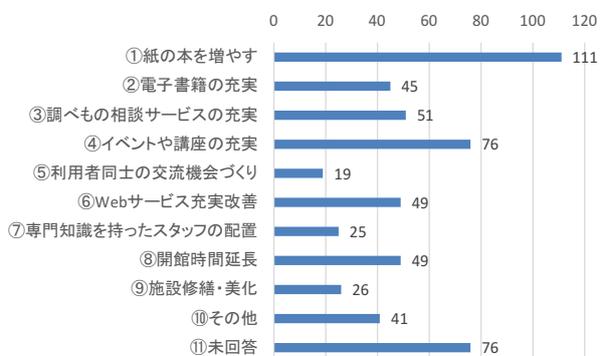
Q9.(Q4で①を選択した方へ)図書館を利用しない理由・利用しなくなった理由を教えてください。あてはまるものを3つまで選択してください。



Q10.図書館や図書館サービスについて知っているものはありますか。あてはまるものを全てを選択してください。



Q11.これからの図書館に望むことはありますか。あてはまるものを3つまで選択してください。



一関市立図書館振興計画 用語集

(あ行)

① ICタグ

電波を受けて働く小型の電子装置。書籍（資料・AVメディアを含む）にICタグを貼付け、運用する事により図書館における様々な業務の効率化が図られる。

② SNS

Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。登録を許可された会員同士がつながり、交流するためのウェブサイト又はその機能を提供するサービスをいう。「X(旧 twitter (ツイッター))」や「Facebook (フェイスブック)」がある。

③ SDGs

Sustainable Development Goals（サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ）の略。先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標として、2015年9月の国連サミットで採択された。貧困や飢餓、水や保健、教育、医療、言語の自由やジェンダーなど、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成するという目標になっていて、17のゴール（目標）とそれぞれの下により具体的な169項目のターゲット（達成基準）がある。

④ オーディオブック

書籍の内容を読み上げて、カセットテープ、CD、DVDに録音したもの。近年では、インターネットを通しての配信やダウンロード購入の形態が主となっている。朗読のほか、講演や落語など分野は多岐にわたり、語学学習にも利用される。

⑤ OPAC（オーパック）

Online Public Access Catalog（オンライン・パブリック・アクセス・カタログ）の略。オンライン閲覧目録と訳される。図書館の蔵書をデータベース化し、利用者が直接パソコンなどの端末機器からオンラインで検索することができるようにした目録をいう。

⑥ オンラインデータベース

インターネット回線を通じて利用できるデータベースをいう。利用者はパソコンなどの端末機器で必要な情報を検索することができる。

(か行)

⑦ 基本図書

図書館の目的を達成するために、蔵書の中核として構成された最小限の図書群。それぞれの部門でまず備えておくべき図書群であり、辞書などの参考図書を含めた図書館蔵書のベースとなるような図書をいう。

⑧ キャリアアップ

より高い専門的知識や能力、技術、資格などを身につけること。経歴を高くすること。

⑨ キャリアデザイン

職業人生を自ら設計すること。また、その設計をいう。

⑩ 郷土資料

図書館の所在する地域や自治体に関する資料をいう。地方自治体が刊行した資料、地域内で活動する団体又は個人が刊行した資料、文学やビジネスなど地域をテーマとして捉えている資料、古文書や古地図、姉妹都市や友好都市関係にある地域の資料などがある。

⑪ グローバル化

情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人、物材、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象をいう。

⑫ グローバル人材育成

グローバル化していく現代社会に対応できる人材を育成するため、キャリア教育や様々な体験活動の実践、国際性を身に付けるための教育、子どもたち自らのアイデンティティー確立のための郷土の歴史や文化についての教育をすすめる一関市の重点事項である。

⑬ 国際リニアコライダー（ILC）

International Linear Collider（インターナショナル・リニア・コライダー）。全長 30km の直線状の加速器をつくり、現在達成しうる最高エネルギーで電子と陽電子の衝突実験を行う計画をいう。宇宙初期に迫る高エネルギーの反応を作り出すことによって、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎に迫ろうとするもの。岩手県北上山地が有力な候補地になっている。

⑭ ことばの力を育てる教育

一関市教育振興基本計画の基本施策のひとつで、本市の教育の特色である「ことばと読書」「ことばの響き」「ことばの先人」を三つの柱とした取組を一層推進することにより、心の豊かさや言葉の感性、語彙の豊かさなど、豊かな言語能力と郷土への誇りを育むとともに、コミュニケーション力の向上を目指す。

読書普及員の全校配置や市独自教材『言海』の活用により、思考力、表現力、コミュニケーション能力の育成を主な取組とする。

（さ行）

⑮ 雑誌スポンサー事業

図書館が所蔵する雑誌の最新号カバーに広告を掲載し、事業者の広告媒体として活用してもらう事業をいう。1タイトルあたりの年間広告掲載料は図書館の利用実態実績によって異なる。

⑯ 市民センター

地域の生涯学習の拠点であった公民館の機能に、地域協働体と地域づくりの拠点としての機能を加えることで、生涯学習に係る学びと地域づくりを一体化し、地域の特性を活かした地域づくりを進めていくための施設をいう。平成 27 年 4 月に公民館から移行した。

⑰ 情報リテラシー

様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力をいう。

具体的には、「さまざまな種類の情報源について熟知している。」、「実際にレファレンスブックや各種データベースなどを利用して必要な情報にアクセスすることができる。」、「情報の精度や再現率などからアクセスした情報の正しい評価を行うことができる。」、「既存の知識体系の中に新しい情報を統合することができる。」、「問題解決にあたり情報を有効に適用することができる。」などがある。

⑱ 除架

書架から資料を除くこと。資料が増えて収容限度を越えた場合又は新鮮さと魅力を保つために、開架には適さない資料を除いて書庫に納めたり除籍したりすること。

⑲ 資料案内

図書館におけるPR活動の一環として、自館所蔵の図書、雑誌、視聴覚資料等の図書館資料を広く人々に知らせること。読書意欲を喚起させ、資料と利用者を結び付けることを目的とする。

⑳ 資料構成

図書館蔵書が図書館のサービス目的を実現する構造となるように、資料を選択、収集して、計画的組織的に蔵書を形成、維持、発展させていく意図的なプロセスをいう。

㉑ ストーリーテリング

物語を覚えて子どもたちに対して語りこ。 「おはなし」、 「素ばなし」ともいう。文字を十分に読めない子どもでも物語を楽しむことができるので、児童図書館や地域文庫、家庭文庫、学校などで、読書への導入手段として用いられる。

㉒ 専門職員

司書、司書補の資格を有する職員をいう。

(た行)

㉓ 大活字本

大きな活字で印刷された図書。大型活字本、拡大図書ともいう。

㉔ 多文化サービス

図書館サービスを行う上で、その対象者や奉仕地域内の文化的多様性を反映させた図書館サービスの総称。民族的、言語的、文化的少数者（マイノリティ）と同時に、多数者（マジョリティ）も含む地域の全ての住民にとって、相互に民族的、言語的、文化的相違を理解しあえる資料や情報の提供を含む。

㉕ 点字資料

点字で書かれた図書。点字は視覚障がい者が手で触れて読むための文字。

②⑥ 電子資料

情報の蓄積、流通に電子的なメディアを用いた資料。メディアの記録形式からデジタル資料ということもできる。電子資料は、情報を記録メディアに固定して物流システムで利用者に配送するパッケージ資料と、情報を通信システムで利用者に伝送するネットワーク系資料に大別される。

②⑦ 電子図書館

広義には、「資料と情報を電子メディアによって提供すること」を指すが、多くの場合、図書館が収集、契約又は利用登録することにより、利用者が資料や情報にアクセスできる電子的サービスを意味する（パッケージ系資料を除く）。

一関市立図書館においては、「電子書籍サービス」が主として提供されている。

②⑧ 読書会

何人かのグループで、特定の図書又は特定のテーマに関する複数の図書を読み、これを話題として感想を述べあい、意見を交換しあう会。図書館が読書を普及、促進する目的で主催、あるいは後援する場合があります、集会活動のひとつとして位置付けることもある。

②⑨ 読書バリアフリー

障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための取組。令和元年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が施行された。

③⑩ 読書指導員

市民の図書館活動に対する助言指導をより充実させ、図書館活動の振興を図るため図書館に配置している一関市会計年度任用職員の司書をいう。

③⑪ 読書普及員

学校図書館を基本に活動し、読書環境の整備、学習用図書や学校図書館の図書の選書、読書活動の補助などを行う一関市会計年度任用職員をいう。

(は行)

③② 配本所

公共図書館が設置する地域における小規模のサービスポイントをいう。図書館から定期的に配本が行われ、そこからは多くの場合、図書館職員ではない配本所の管理者等によって利用者へ貸出される。

③③ パスファインダー

特定の主題に関する資料や情報の探索法を一覧できるリーフレットのこと。図書館内の資料やサービスを対象として作成される。データベース形態で提供されるものもある。

③④ ブックトーク

特定のテーマに関する一連の本をエピソードや主な登場人物、著作者の紹介、あらすじも含めて、批評や解説を加えながら一つの流れができるように順序よく紹介したもの。

③⑤ プラットフォーム

ビジネスシーンでは「商品、サービスを提供する場（環境）」や「顧客とつながる場所」といった意味で使われる。

③⑥ フロアワーク

カウンター以外のサービスフロアで行う利用案内、読書案内、レファレンスサービス、読み聞かせ、ブックトーク、その他の利用者サービスの総称をいう。計画的に職員が館内を巡回し、利用者との接触機会を増やす効果がある。

③⑦ POP

Point Of Purchase（ポイント・オブ・パーチェス）の略。店頭で掲示したり、商品に付けたりする広告のこと。

(ま行)

③⑧ MARC

MAchine-Readable Cataloging（機械可読目録）。図書館資料の書名、著者名、出版事項などの情報をコンピュータで処理可能な形に作成すること又は記録したものをいう。

③⑨ マルチメディアDAISY（デイジー）

テキストに画像や音声データを同期させたアクセシブルな電子書籍資料をいう。音声データのみのはDAISY（デイジー）図書と呼ぶ。DAISYとは Digital Accessible Information Systemの略で、視覚障害などで活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格となっている。

④⑩ 目録

一般にある種の物品を、簡潔に表現してリスト化したもの(カタログ)をいい、図書館では図書目録ないし資料目録の略称として用いられる。

(や行)

④⑪ ヤングアダルト資料

おおむね12歳から18歳(中学生から高校生の青少年)を対象とする資料をいう。

(ら行)

④⑫ LAN

Local Area Network(ローカル・エリア・ネットワーク)の略。同一構内又は同一建物内における情報通信網。パソコンやプリンターなどを相互接続し、情報の送受、処理を行う。ケーブルを配線する「有線LAN」と、電波や赤外線により無線で通信する「無線LAN」がある。また、駅や空港などの場所で無線LANによるインターネット接続環境を提供し、無線LAN搭載のパソコンやスマートフォンなどが利用できるサービスを「公衆無線LAN」という。

④⑬ リライト資料

LLブックともいう(LLはスウェーデン語で「やさしく読める」の意の略語)。知的障がい者や発達障がい者のために、やさしくわかりやすい言葉で短く書き直した資料をいう。

④⑭ レコメンド機能

ウェブサイトのユーザーの行動履歴や属性データをもとに、そのユーザーに最適なコンテンツを自動的に提案する機能をいう。

④⑤ レファレンスサービス

参考業務、参考調査などと訳される。何らかの情報を求める利用者に対して、図書館職員が情報あるいは文献を提供するサービスと、あらかじめ情報の入手が容易かつ効果的になるように図書館資料を整備し、利用の環境を整える活動をいう。

④⑥ レフェラルサービス

利用者からの情報の要求に対して、その分野の適切な専門家や専門機関に照会して情報を入手し、提供するサービス又はそうした専門家や専門機関を利用者に紹介するサービスをいう。

④⑦ 録音図書

書籍を朗読し、その音声を録音したものをいう。オーディオブックのほか、DAISY（デージー）図書などがある。（④オーディオブック、③⑨マルチメディアDAISY）

（わ行）

④⑧ ワークショップ

講習会。とくに、参加者が自主的に活動して行う講習会をいう。

一関市立図書館振興計画（令和8年度－令和17年度）策定の経過

年 月 日	内 容	
	会議等の名称	実施内容
令和6年9月20日～ 10月15日	市民アンケート	図書館の利用状況や、これからの市立図書館に期待する事項に関する調査
令和7年6月上～下旬	第1回各図書館運営協議会	策定方針説明、事業評価
// 7月8日	第1回一関市図書館協議会	策定方針説明、事業評価
// 10月28日	第2回社会教育委員会議	計画素案説明
// 11月上～中旬	第2回各図書館運営協議会	計画素案説明、意見交換
// 11月14日	第2回一関市図書館協議会	諮問、 計画素案説明、協議
// 11月28日～ 12月11日	パブリックコメント	計画案に対する意見募集
// 12月上中旬	第3回各図書館運営協議会	計画案説明、意見聴取
// 12月15日	一関市令和7年度第2回 政策調整会議	計画案説明
// 12月22日	一関市議会教育民生常任委員会	計画案説明
// 12月23日	第3回一関市図書館協議会	計画案説明、意見聴取、答申
令和8年1月20日	教育委員会定例会	計画案説明
// 2月26日	教育委員会定例会	

一関市立図書館振興計画

令和8年度－令和17年度

併録 前期サービス計画（令和8年度－令和12年度）

発行者：一関市教育委員会

編集：一関市立図書館

（事務局：一関図書館）

〒021-0884 岩手県一関市大手町2番46号

TEL 0191-21-2147 FAX 0191-21-2107

MAIL toshokan@city.ichinoseki.iwate.jp